
高畠町立小学校の教育環境に関する
アンケート調査結果について

高畠町立小学校の教育環境に関するアンケート調査結果

1. 調査概要

(1) 目的

昨今の児童数の減少や学校施設の老朽化を踏まえ、子どもたちにとってより良い教育環境としての学校はどうあるべきか協議・検討を進める時期にあると考え、幅広い町民の考え方や意見を把握し、今後の方針を検討する上での基礎資料とするため本アンケート調査を実施した。

(2) 調査対象

小学生以下の子どもを持つ保護者全世帯と、16歳以上の町民の中から無作為に抽出し、合計3,000人を調査対象とした。

(3) 調査期間

令和5年11月10日～11月30日

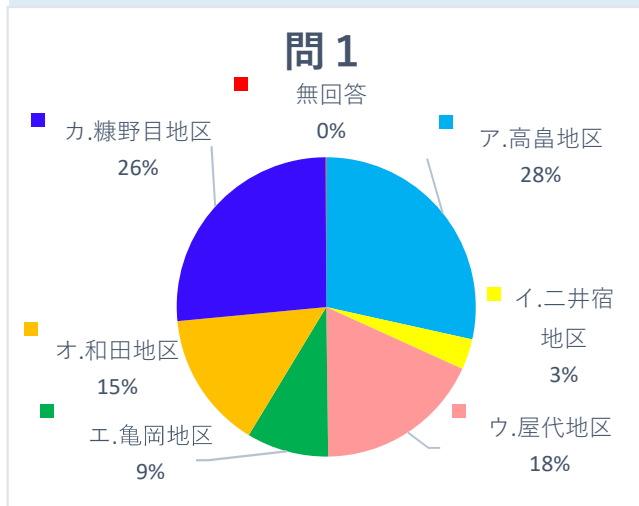
(4) 回答数

1,289人（回答率43.0%）

2. 調査結果

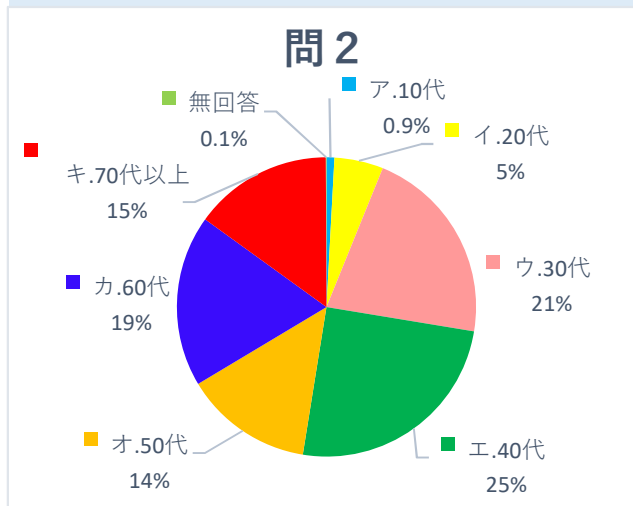
ご回答者について

問1：あなたがお住まいの地区（行政区）を教えてください。



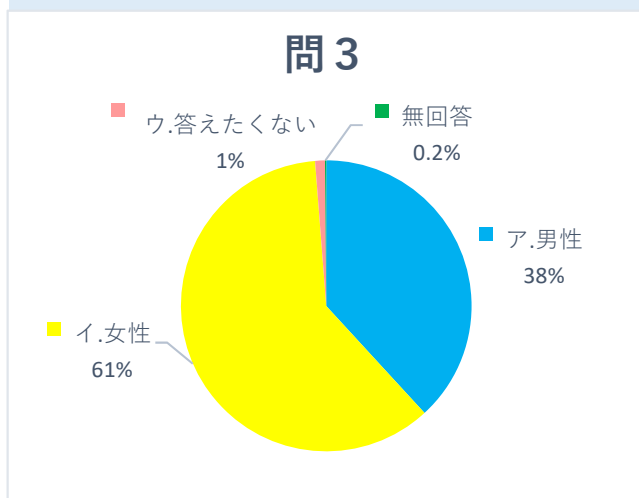
ア.高島地区	367
イ.二井宿地区	43
ウ.屋代地区	232
エ.亀岡地区	114
オ.和田地区	191
カ.糠野目地区	341
無回答	1

問2：あなたの年齢層を教えてください。



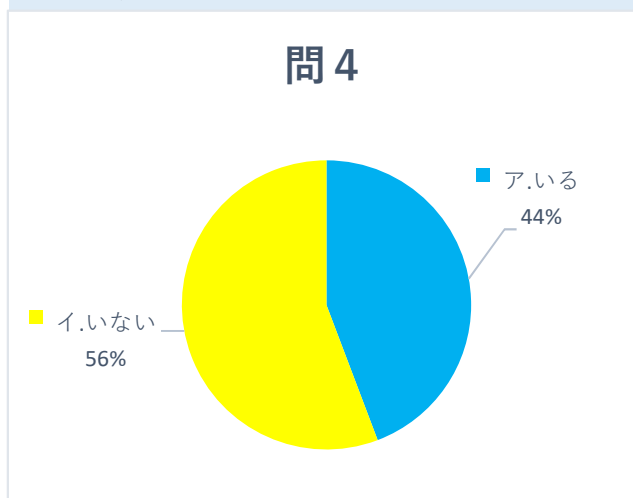
ア.10代	11
イ.20代	68
ウ.30代	277
エ.40代	321
オ.50代	179
カ.60代	239
キ.70代以上	193
無回答	1

問3：あなたの性別を教えてください。



ア.男性	492
イ.女性	781
ウ.答えたくない	14
無回答	2

問4：あなたには、現在小学生以下（0歳～小学6年生）のお子さんがいますか。

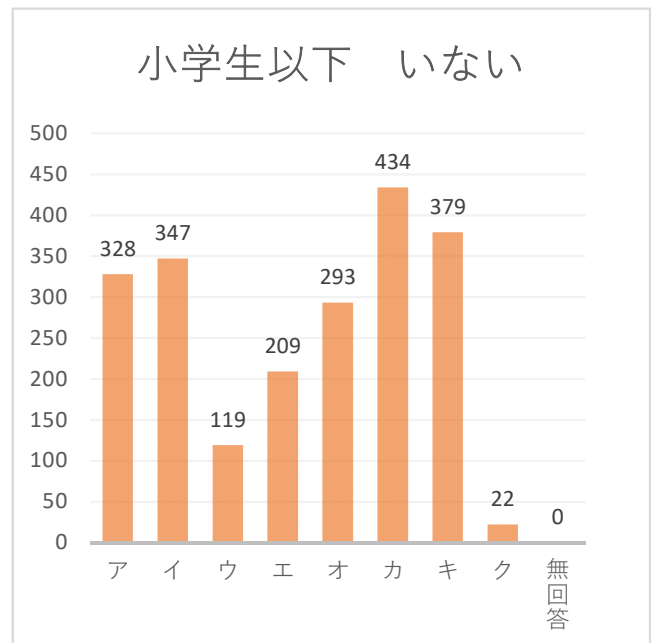
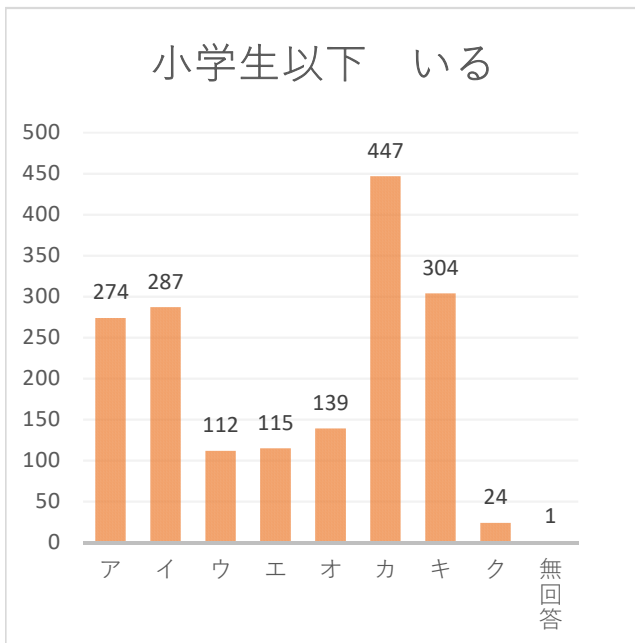
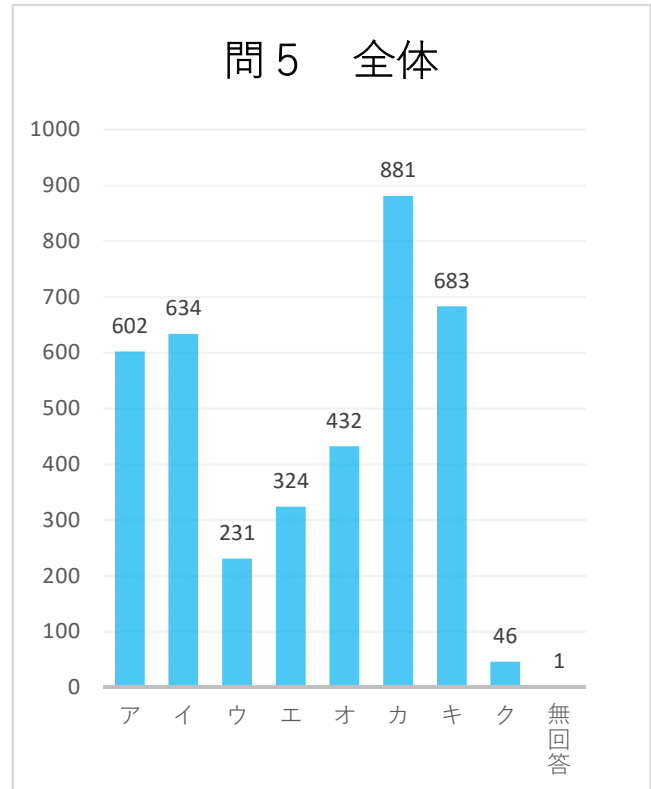


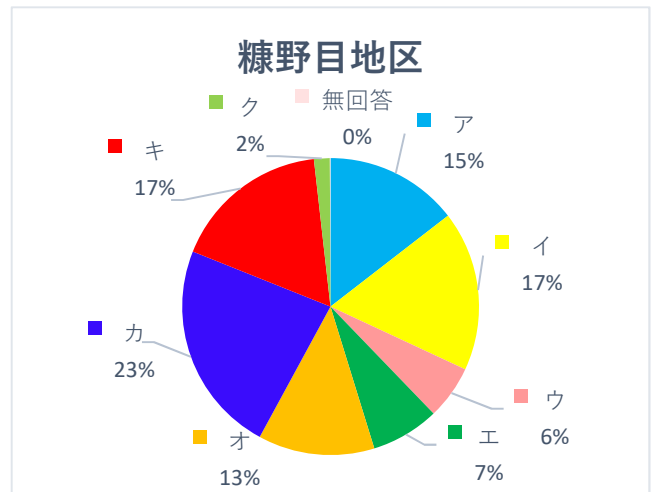
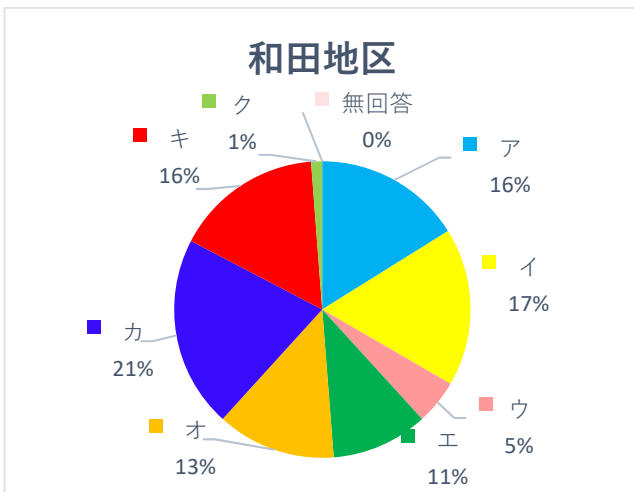
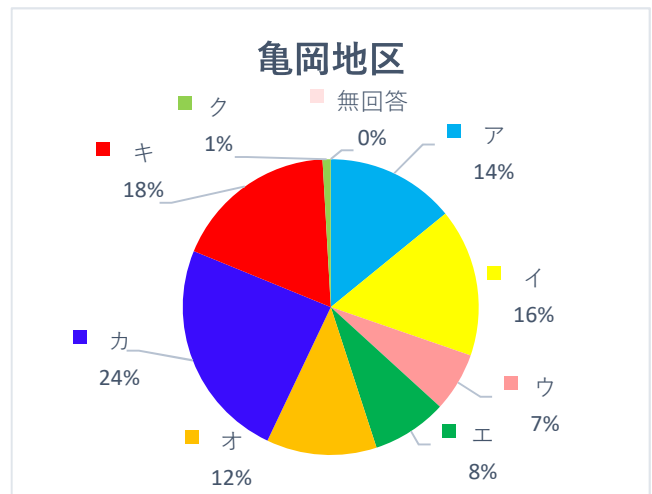
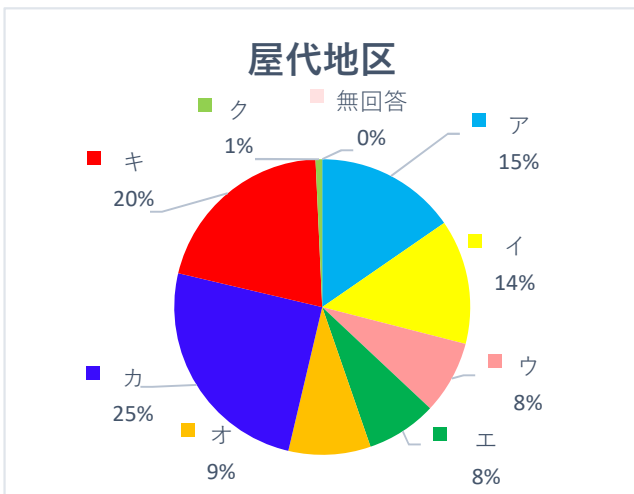
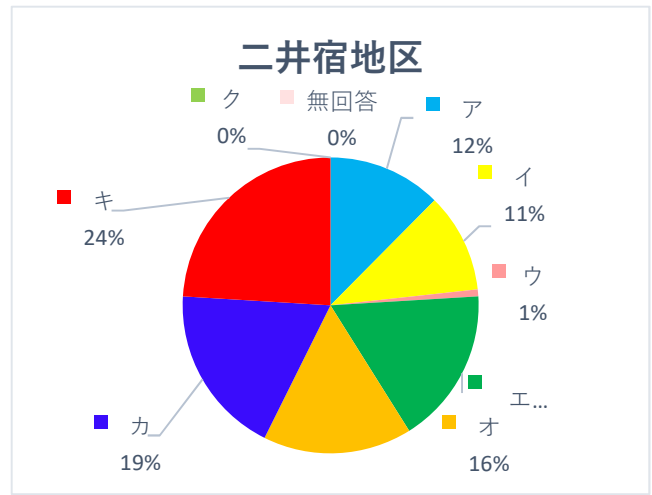
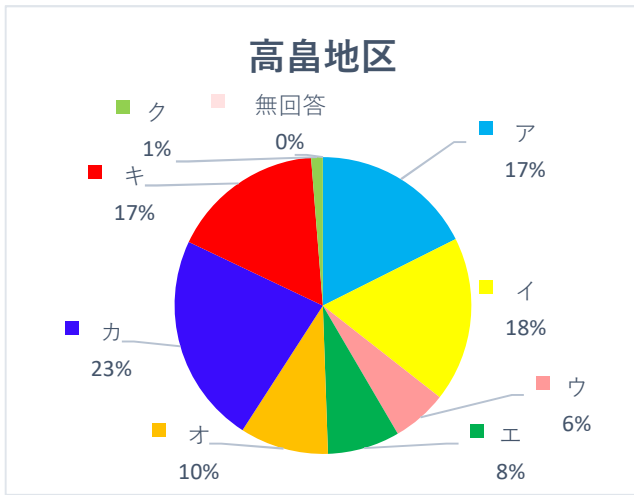
ア.いる	570
イ.いない	719

子どもの教育活動の場として

問5：小学生にとって大事な教育環境は何だと思いますか。次のア～クから3つまで選んでください。

- ア. 校舎などの安全環境
- イ. 施設・設備・教具などが充実した環境
- ウ. 学校・学級などの規模的環境
- エ. 自然とふれあえる環境
- オ. 地域社会と密着できる地域の環境
- カ. 安心して生活できる学級の環境
- キ. 一人ひとりの能力に応じた教育ができる環境
- ク. その他



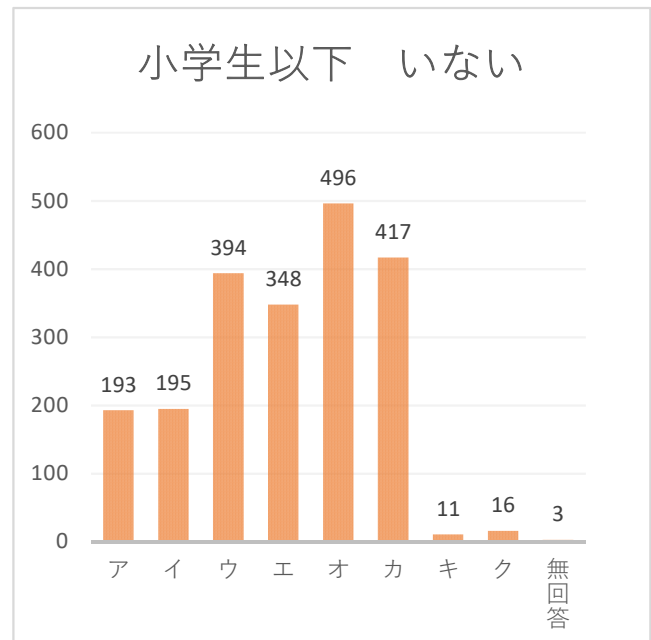
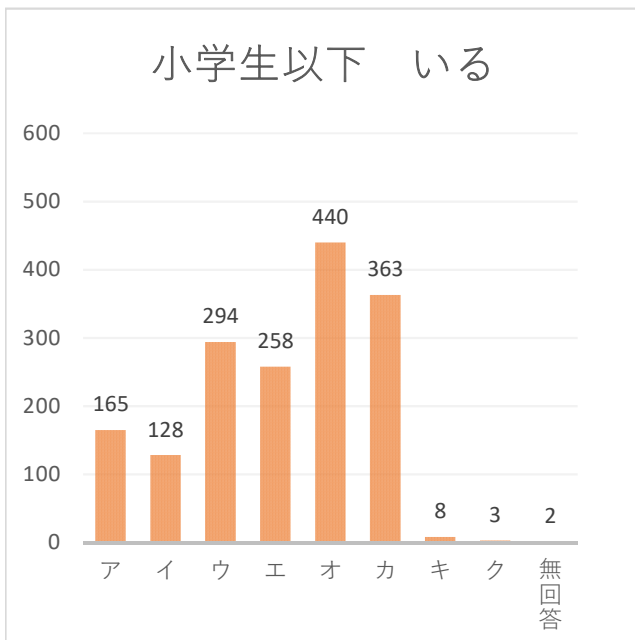
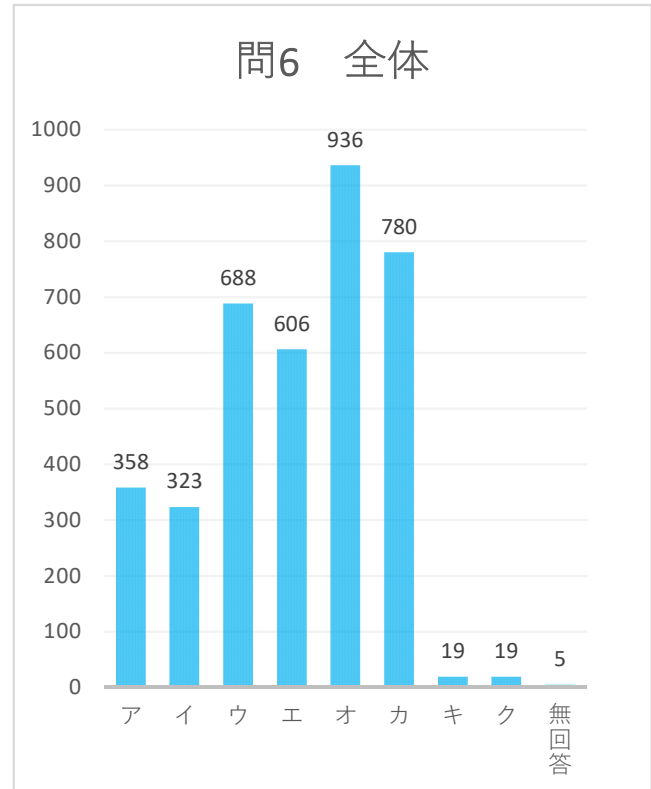


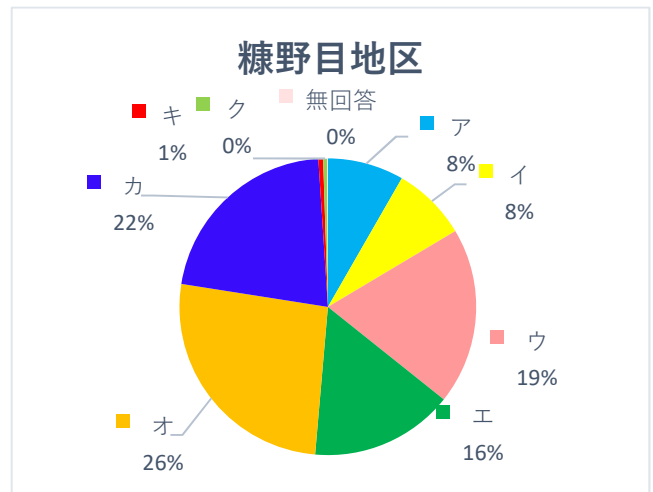
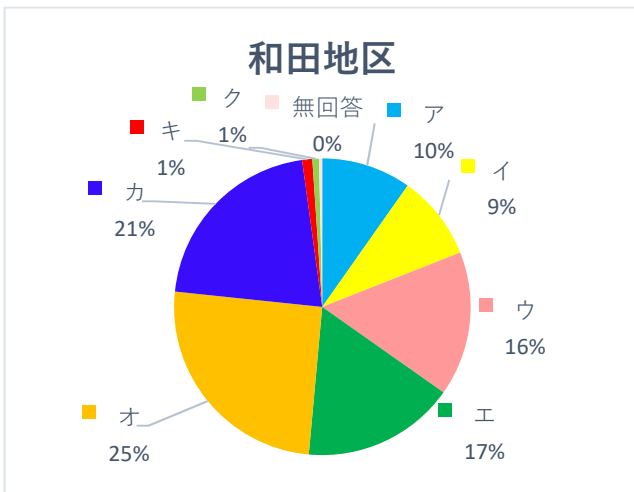
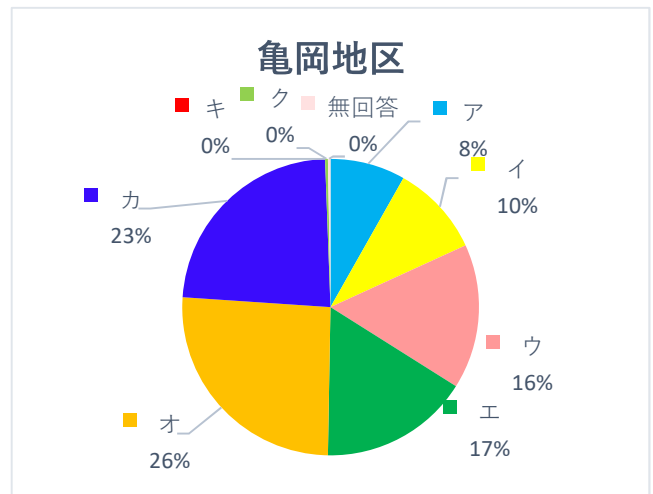
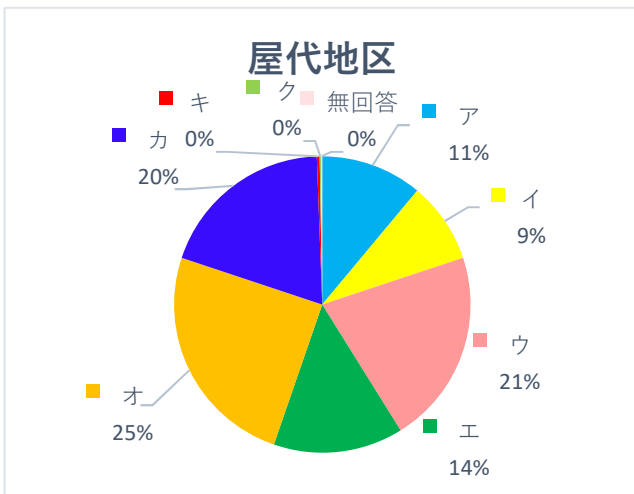
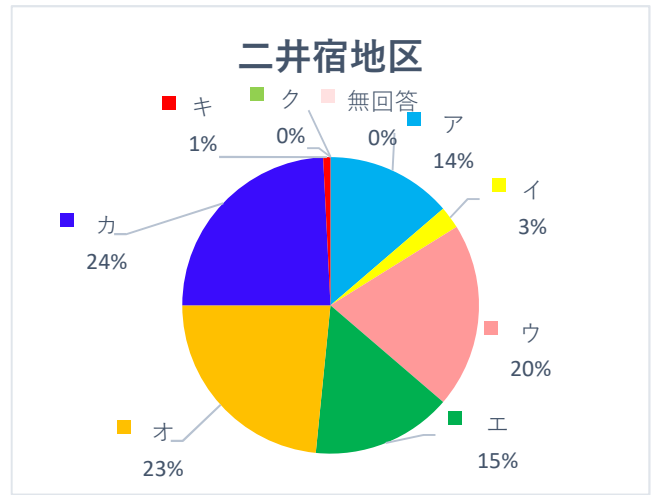
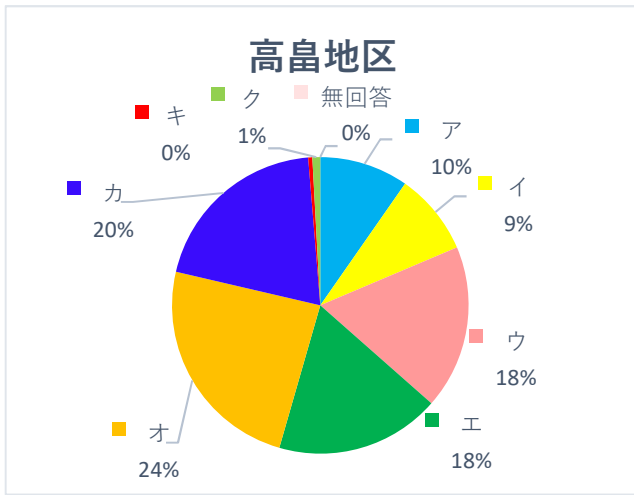
全体として「カ. 安心して生活できる学級環境」が最も多く、「キ. 一人ひとりの能力に応じた教育ができる環境」、「イ. 施設・設備・教具などが充実した環境」、「ア. 校舎などの安全環境」が続きます。これは小学生以下のお子さんがある、いないに関わらず同じ傾向にあり、地区別で見ても類似の傾向がみられますが、二井宿地区では「キ. 一人ひとりの能力に応じた教育ができる環境」が最も多い割合を占めています。

子どもの教育活動の場として

問6：子どもの教育活動の場として、大事な設備環境は何だと思えますか。次のア～クから3つまで選んでください。

- ア. ゆとりある広さの教室環境
- イ. 充実した図書環境
- ウ. 充実したコンピュータ等のICT（情報通信技術）設備
- エ. 多様な学びができる校舎設備（グループ活動ができる多目的スペースなど）
- オ. 安全で快適に過ごせる学習環境（空調設備、バリアフリー化など）
- カ. 思いっきり運動できる体育館やグラウンド
- キ. その他
- ク. わからない



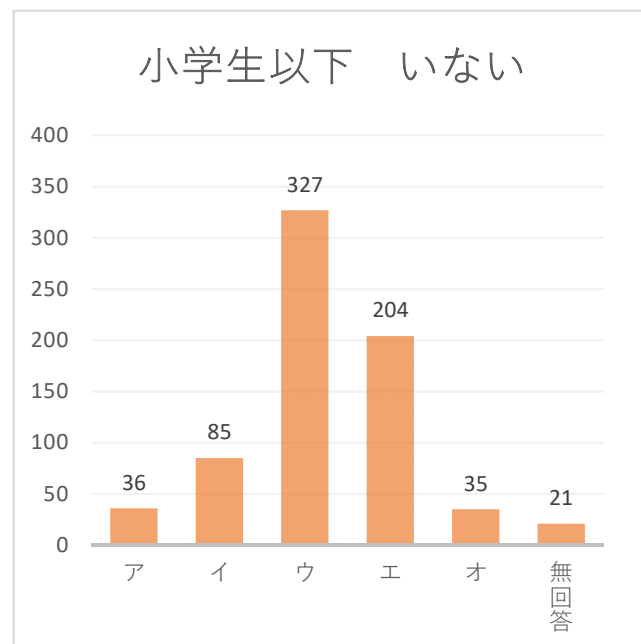
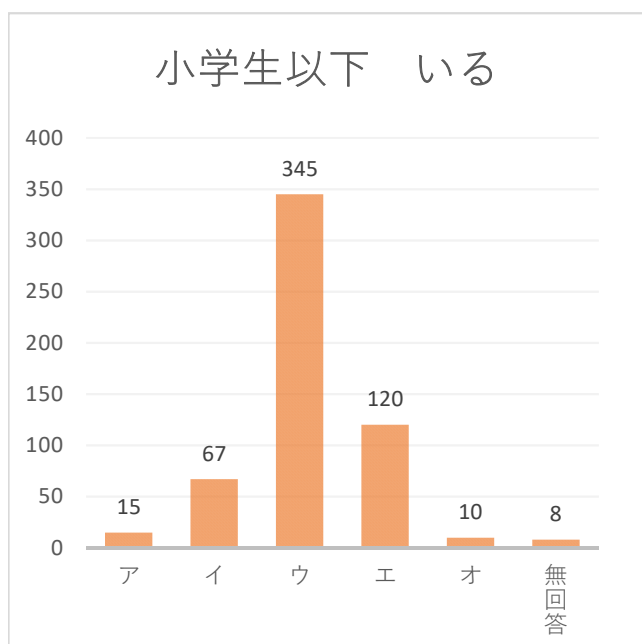
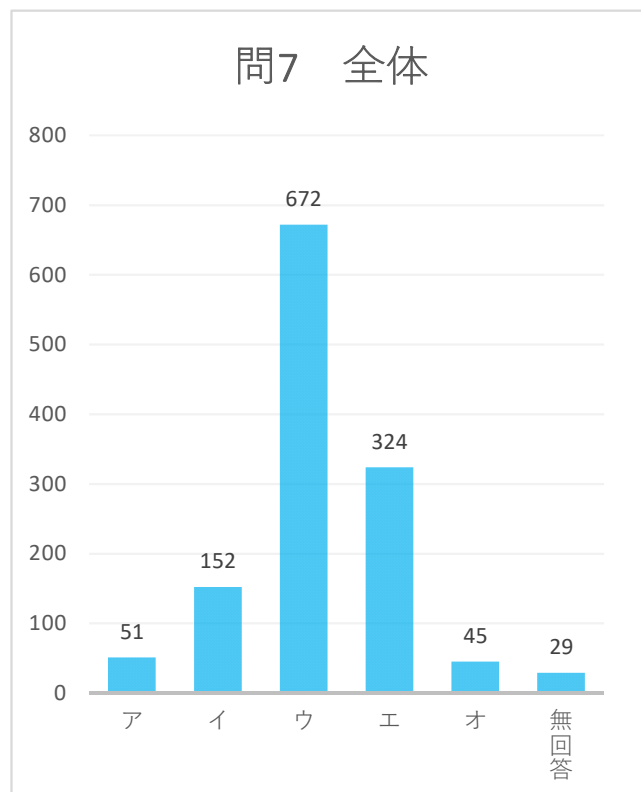


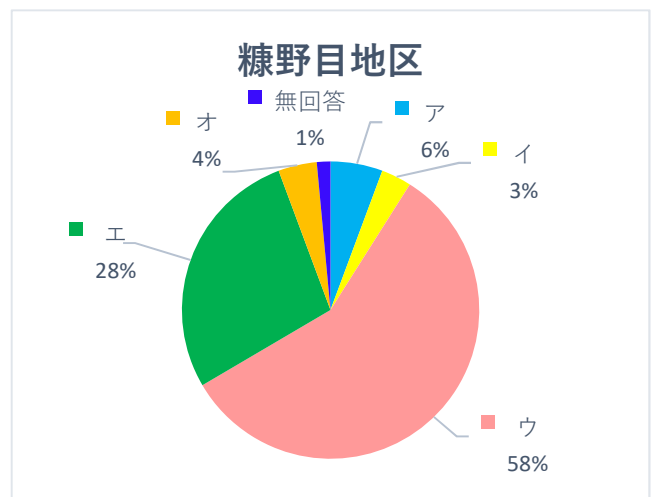
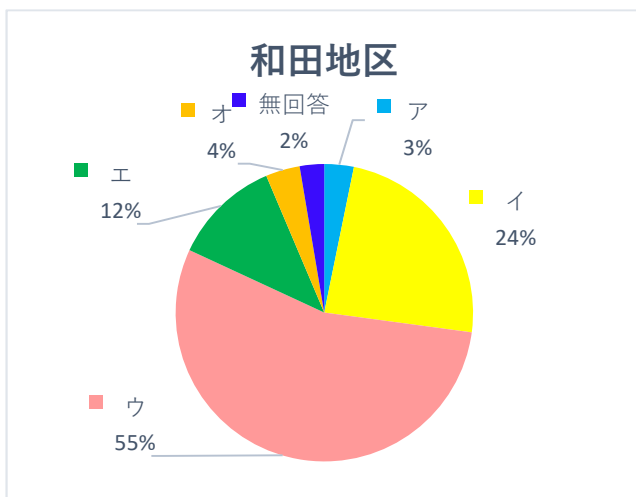
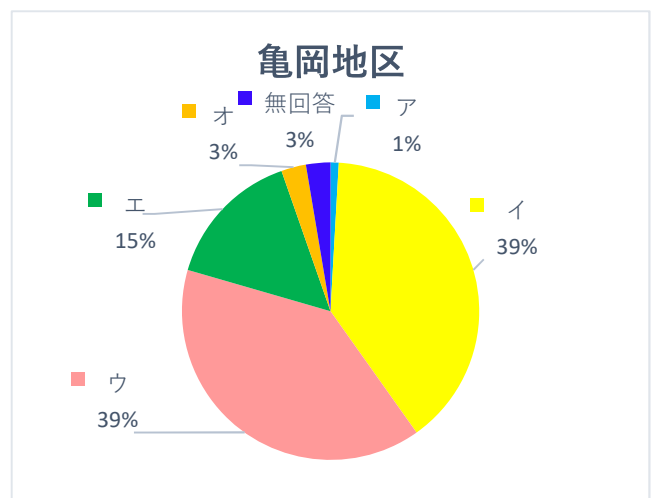
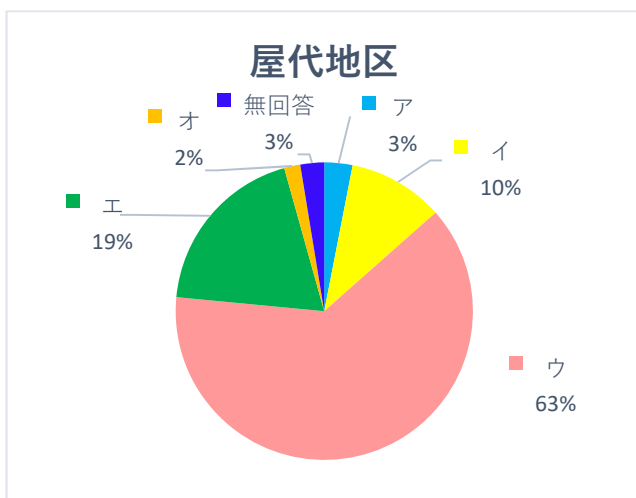
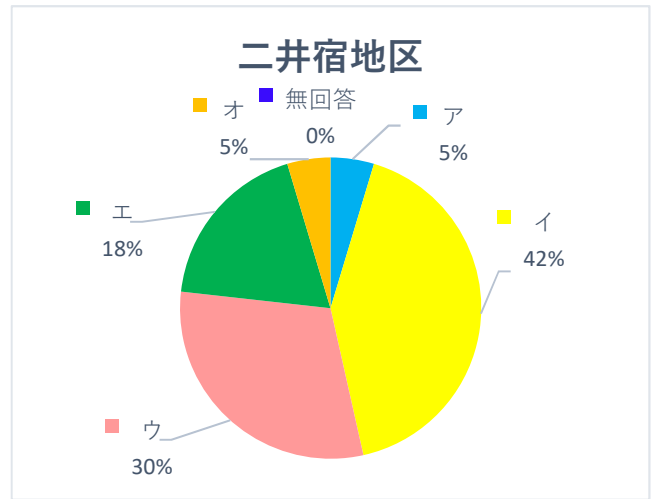
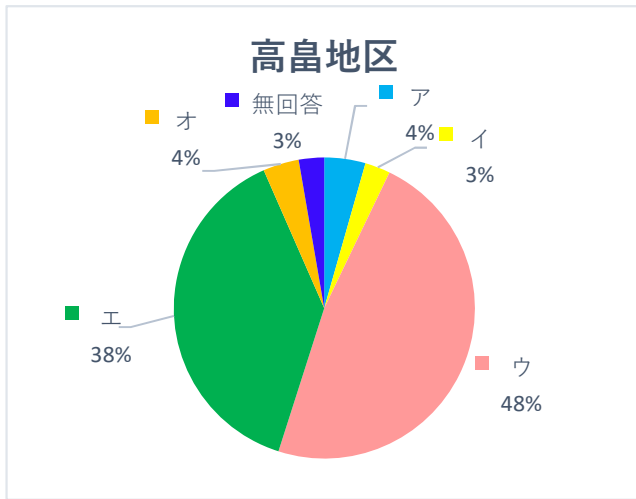
全体として「オ.安全で快適に過ごせる学習環境（空調設備、バリアフリー化など）」が最も多く、「カ.思いっきり運動できる体育館やグラウンド」、「ウ.充実したコンピュータ等のICT（情報通信技術）設備」、「エ.多様な学びができる校舎設備（グループ活動ができる多目的スペースなど）」が上位を占めます。小学生以下のお子さんがある、いないに関わらず、また地区別でも類似の傾向が見られます。

小学校の規模について

問7：小学校の1学年あたりの学級数は、何学級が望ましいとあなたは思いますか。次のア～オから1つ選んでください。

- ア. 複式学級
- イ. 1学級
- ウ. 2学級
- エ. 3学級
- オ. 4学級以上



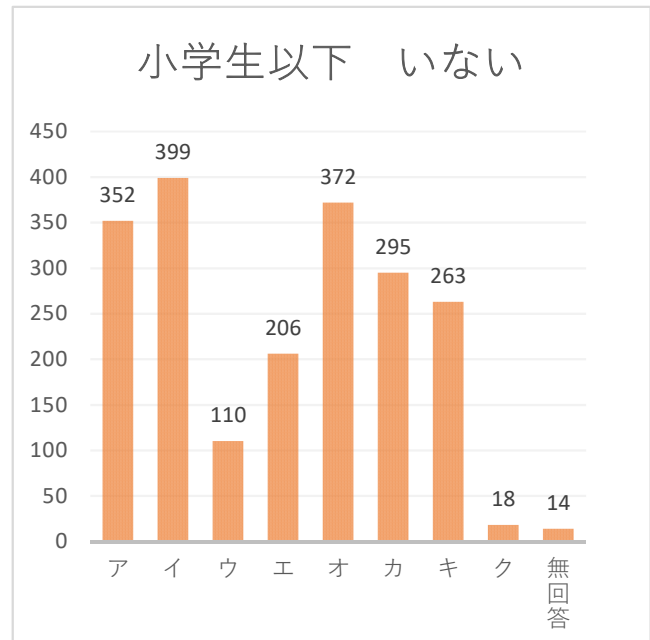
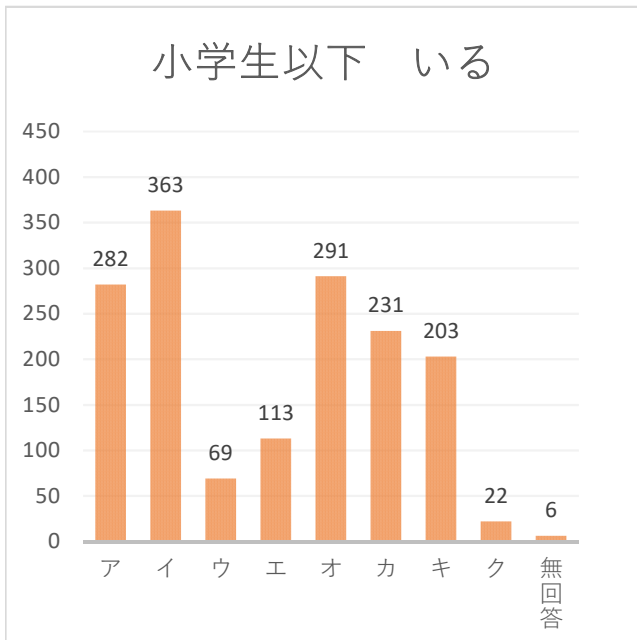
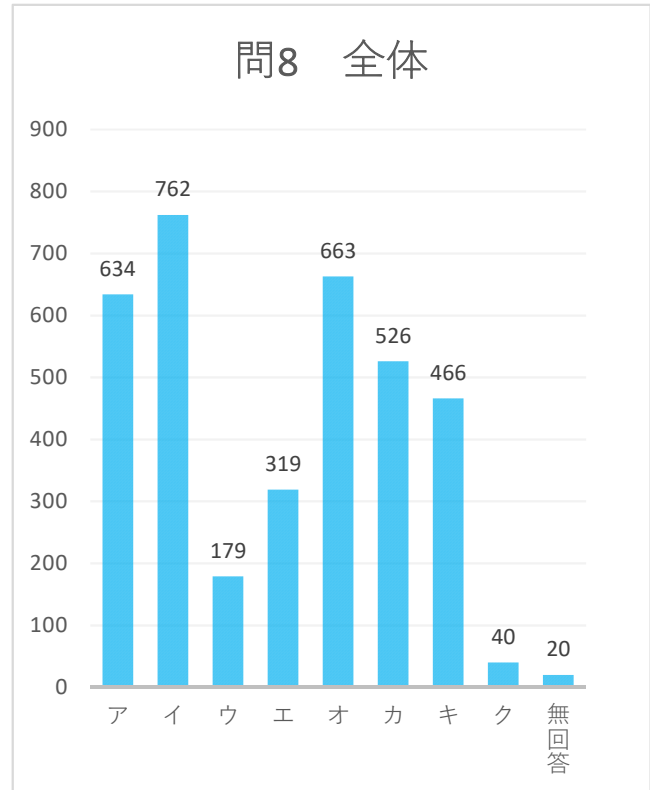


全体として「ウ. 2学級」が突出しています。2学級以上の複数学級を望ましいと回答（ウ、エ、オを選択）した人は全体の81.7%を占めています。高畠地区では「エ. 3学級」を選択した人の割合が他地区よりも多いです。二井宿地区では「ア. 複式学級」「イ. 1学級」を選択した人の割合が47%を占めています。屋代地区では「ウ. 2学級」を選択した人の割合が最も多く、亀岡地区では「イ. 1学級」と「ウ. 2学級」を選択した人の割合が同率になっています。和田地区では「ウ. 2学級」に次いで「イ. 1学級」を選択した人の割合が多く、糠野目地区では複数学級が望ましいと回答（ウ、エ、オを選択）した人の割合が90%を占めています。

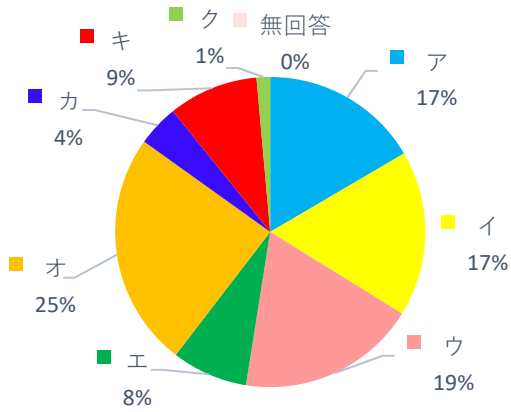
小学校の規模について

問8：問7で回答した理由として、あなたの考えに近いものを次のア～クから3つまで選んでください。

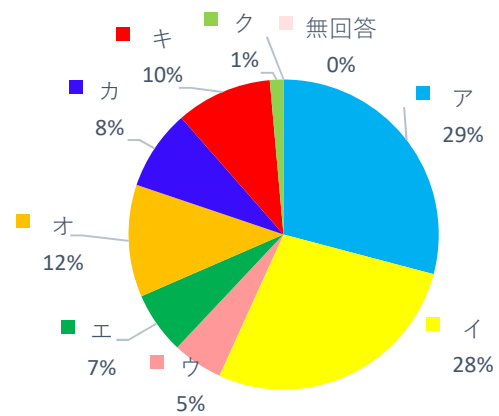
- ア. 児童同士の間関係が深まりやすい
- イ. 教職員の目が届きやすく、きめ細かい指導を受けやすい
- ウ. 異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい
- エ. 学校行事やクラブ活動等において、活動の機会が多くなりやすい
- オ. 多様な人や考えに触れ、社会性や協調性を身に付けることができる
- カ. 運動会や学習発表会などの学校行事に活気が生じやすい
- キ. 競争意識が働き、児童がお互いに切磋琢磨できる
- ク. その他



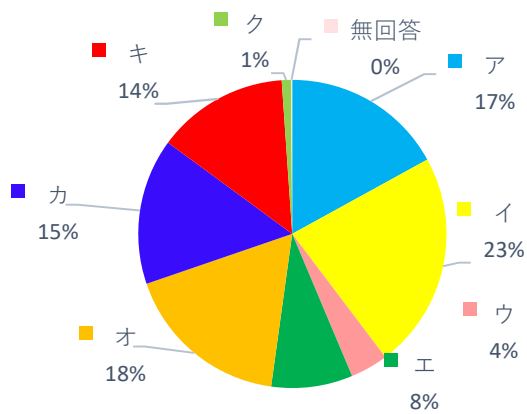
問7で「ア.複式学級」を選択した方



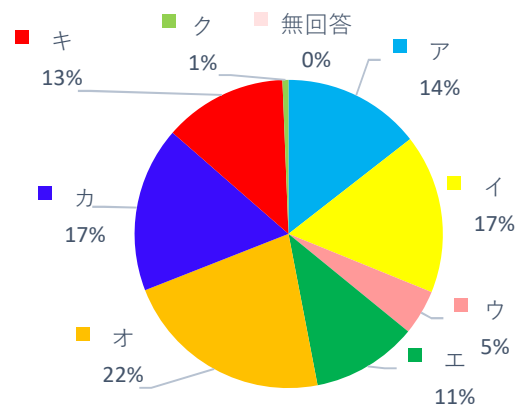
問7で「イ.1学級」を選択した方



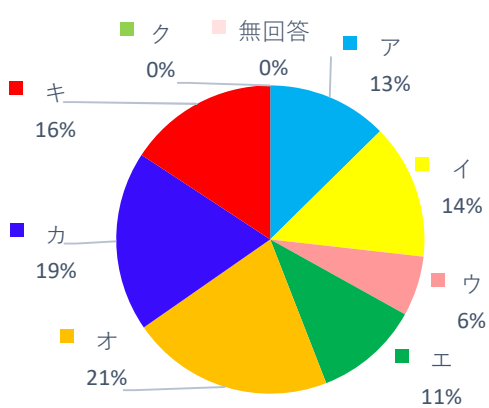
問7で「ウ.2学級」を選択した方



問7で「エ.3学級」を選択した方



問7で「オ.4学級以上」を選択した方



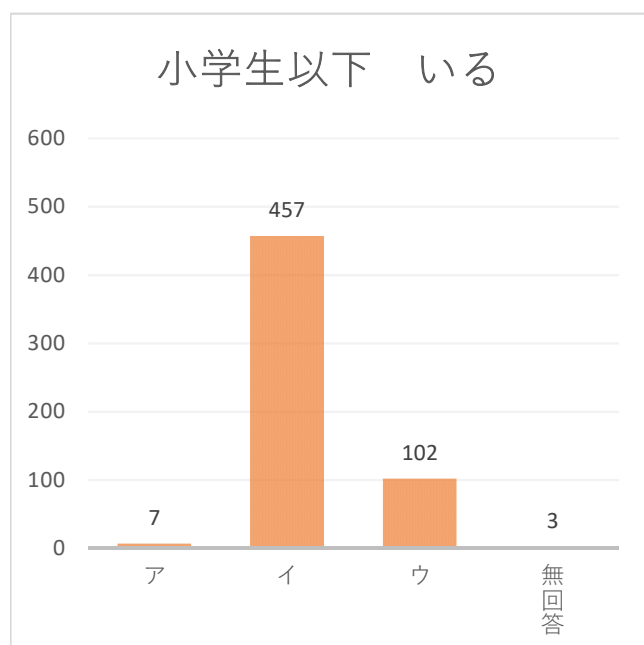
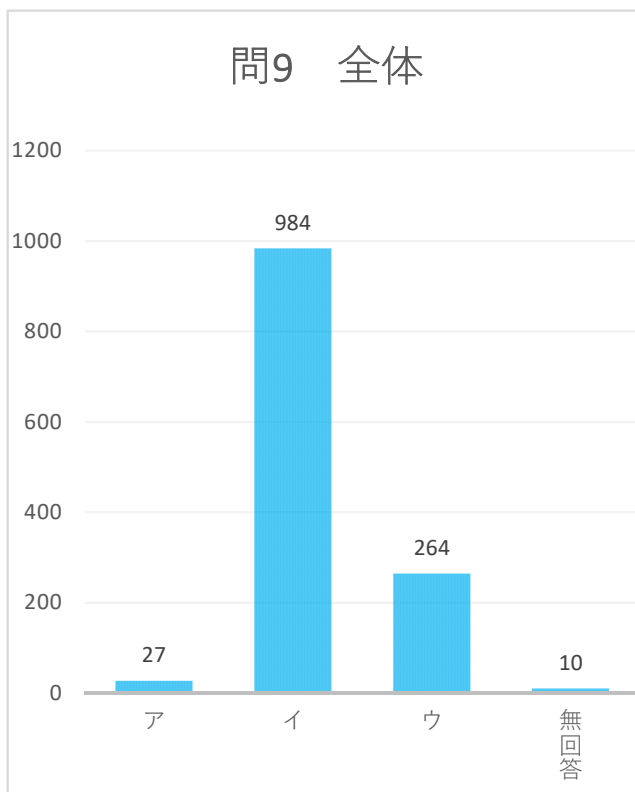
問7で回答した理由については、全体として「イ. 教職員の目が届きやすく、きめ細かい指導を受けやすい」、「オ. 多様な人や考えに触れ、社会性や協調性を身に付けることができる」、「ア. 児童同士の間関係が深まりやすい」が上位を占め、「カ. 運動会や学習発表会などの学校行事に活気が生じやすい」、「キ. 競争意識が働き、児童がお互いに切磋琢磨できる」の順で続きます。複式学級及び2学級以上を選択した人の理由に同様の傾向がみられます。

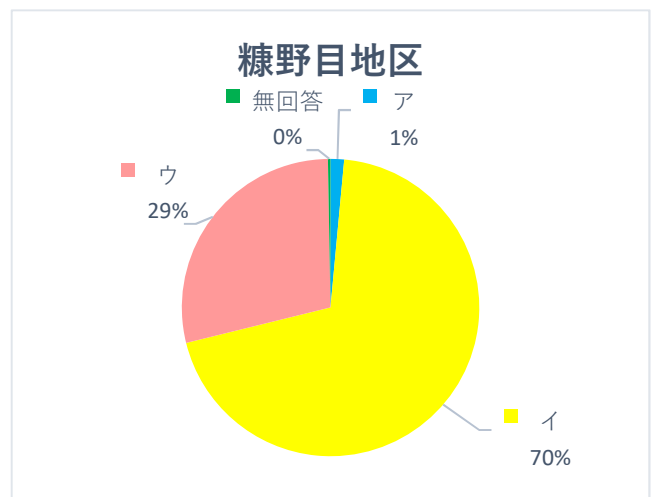
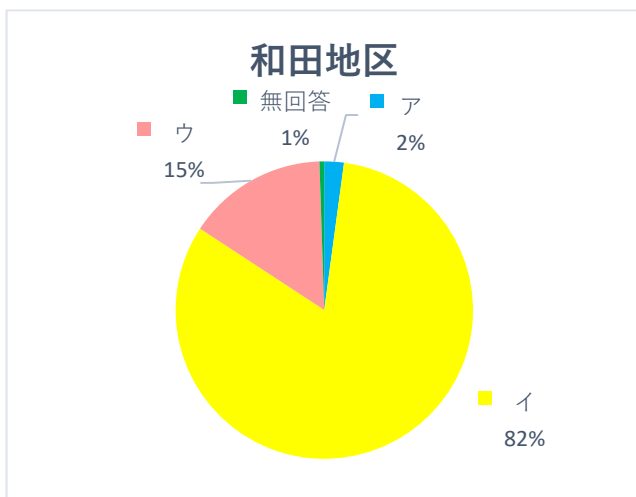
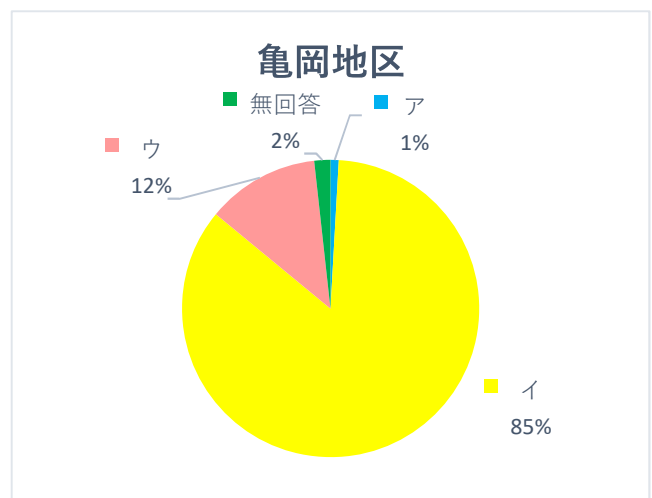
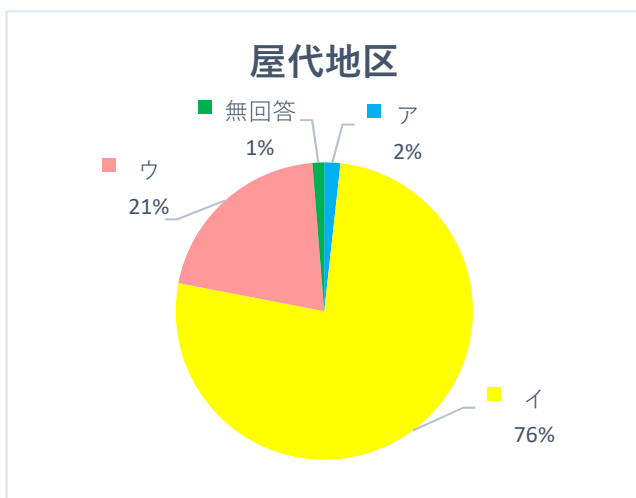
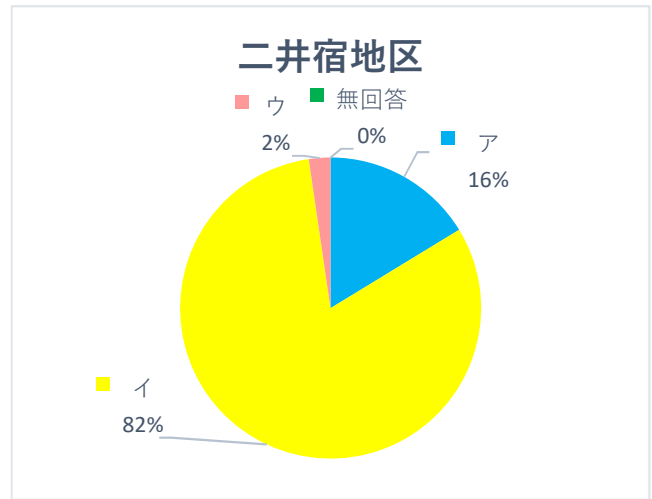
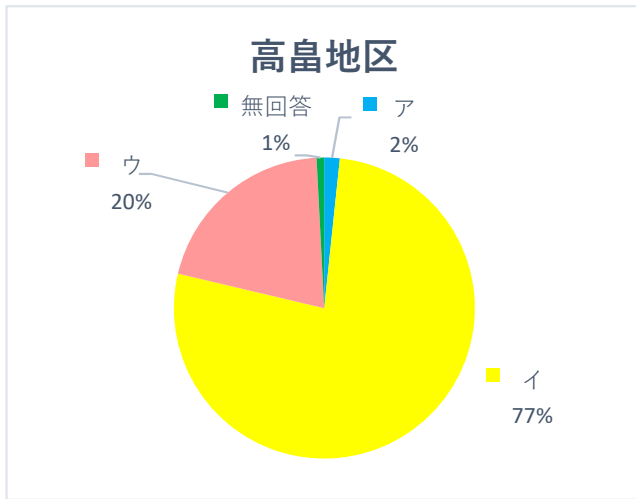
1学級を選択した人の中では、「ア. 児童同士の間関係が深まりやすい」と「イ. 教職員の目が届きやすく、きめ細かい指導を受けやすい」を理由とした割合が合わせて57%を占めています。

小学校の規模について

問9：1学級あたりの人数は、どのくらいが望ましいとあなたは思いますか。次のア～ウから1つ選んでください。

- ア. 10人以下
- イ. 11人～25人
- ウ. 26人～35人



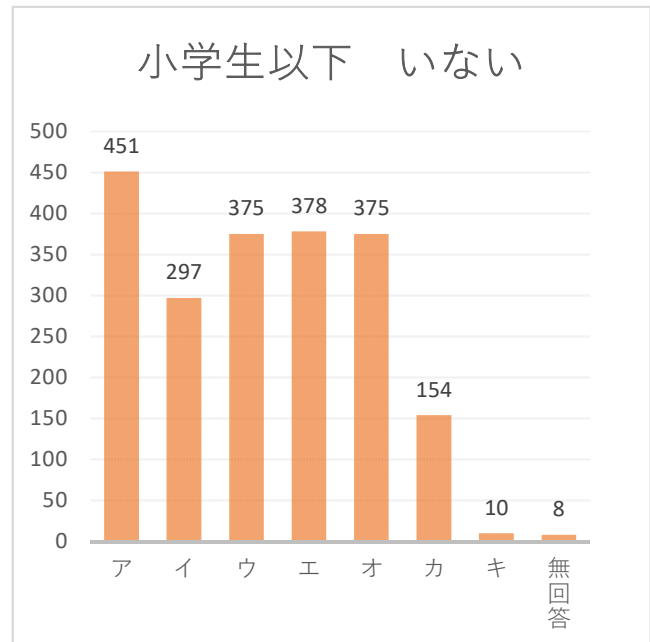
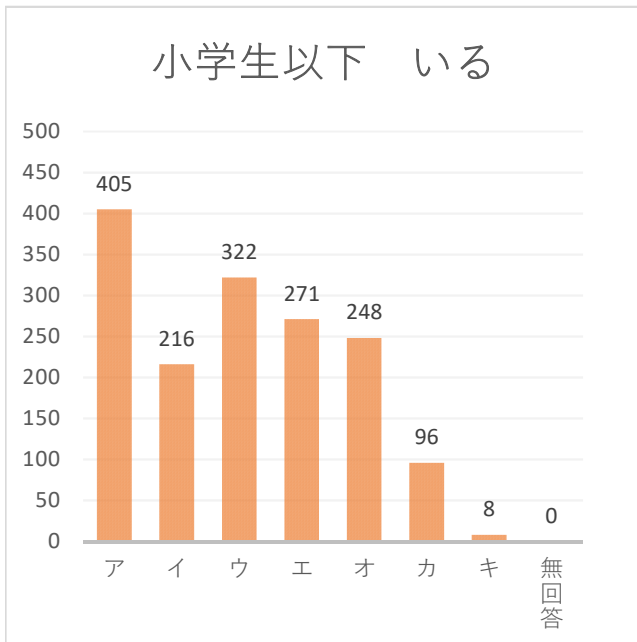
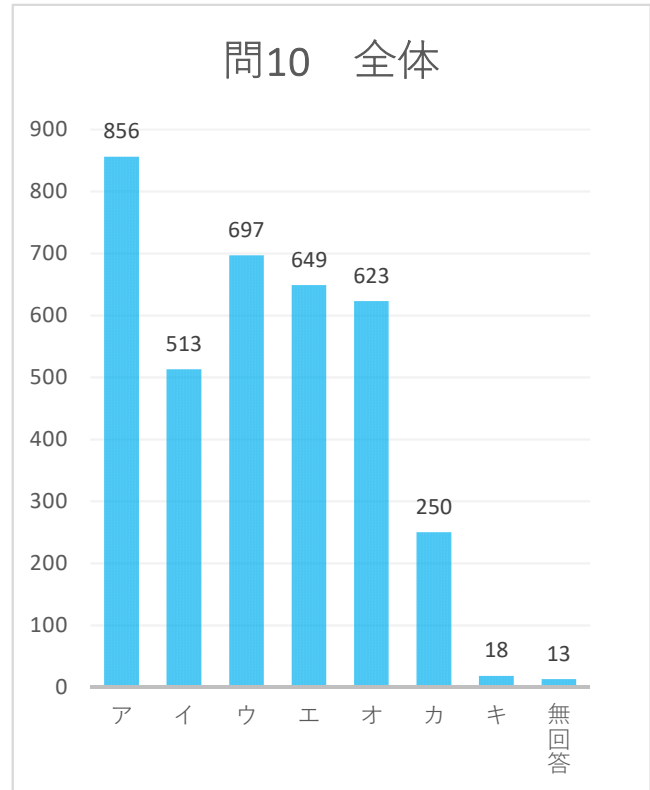


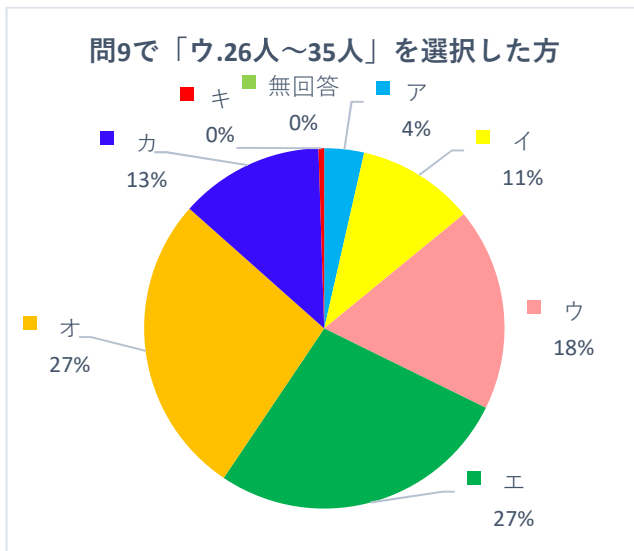
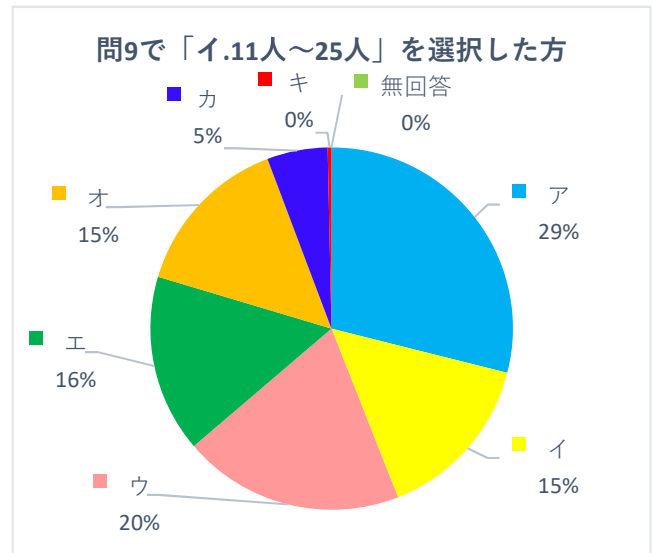
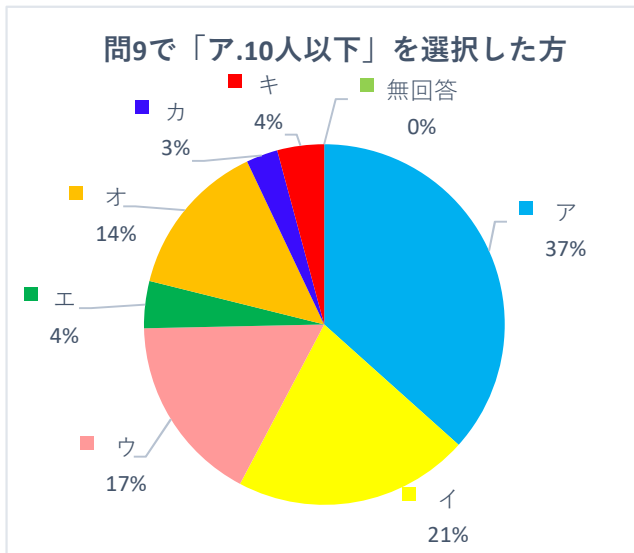
「イ. 11人～25人」を選択した人が全体の約76.6%を占めました。
 地区別では、二井宿地区で「ア. 10人以下」を選択した人の割合が他地区よりも多く、糠野目地区においては、「ウ. 26人～35人」を選択した人の割合が他地区よりも多い結果になりました。

小学校の規模について

問10：問9で回答した理由として、あなたの考えに近いものを次のア～キから3つまで選んでください。

- ア. 児童一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい
- イ. 学校行事やクラブ・委員会活動において、児童一人一人の個別の活動機会を設定しやすい
- ウ. 学級内の絆や団結が強まる
- エ. 多様な考え方に触れ、社会性や協調性を身に付けることができる
- オ. 学級内での人間関係の幅が広がる
- カ. 競争意識が働き、運動や学習意欲が向上する
- キ. その他





問9で回答した理由については、全体としては「ア. 児童一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい」が最も多く、「10人以下」を選択した人の中でも、「11人～25人」を選択した人の中でも一番高い割合を占めています。

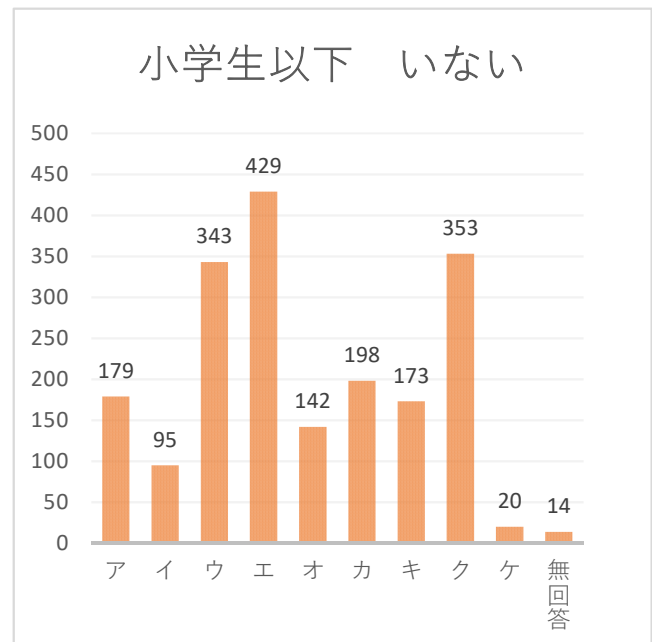
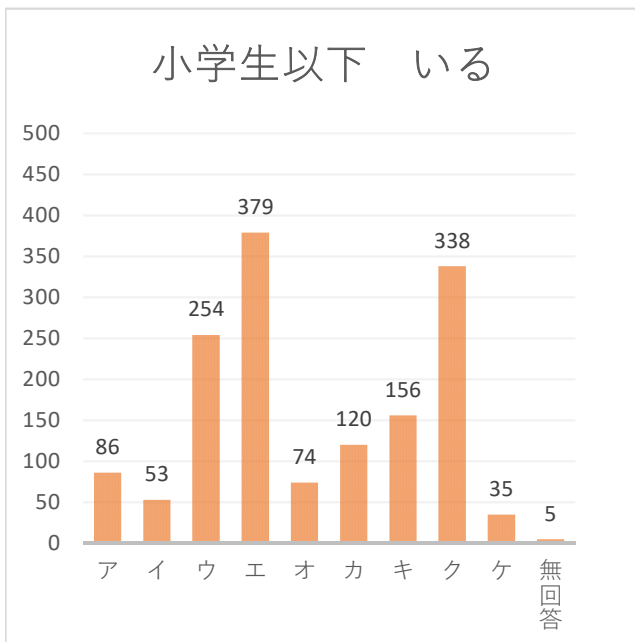
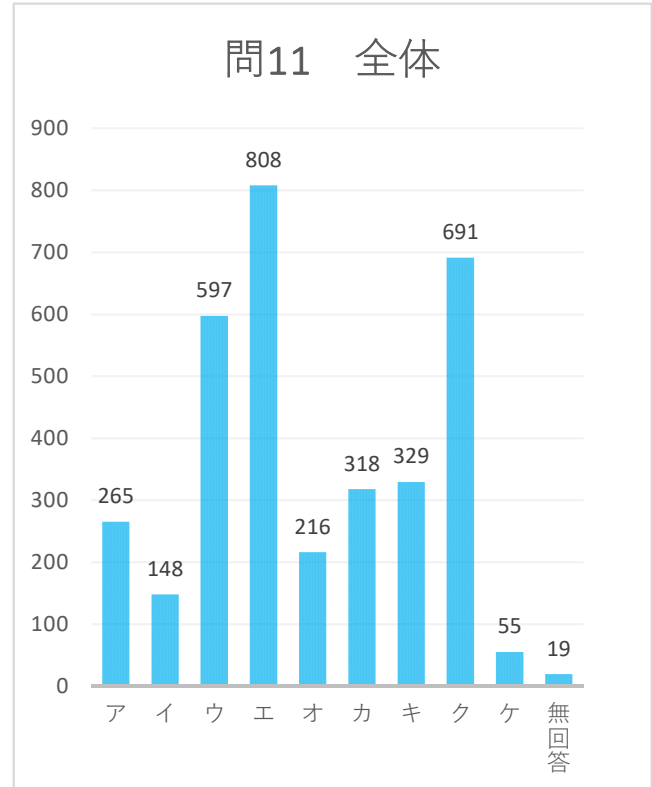
「26人～35人」を選択した人の中では、「エ. 多様な考えに触れ、社会性や協調性を身に付けることができる」と「オ. 学級内での人間関係の幅が広がる」がほぼ同率で最多を占めています。

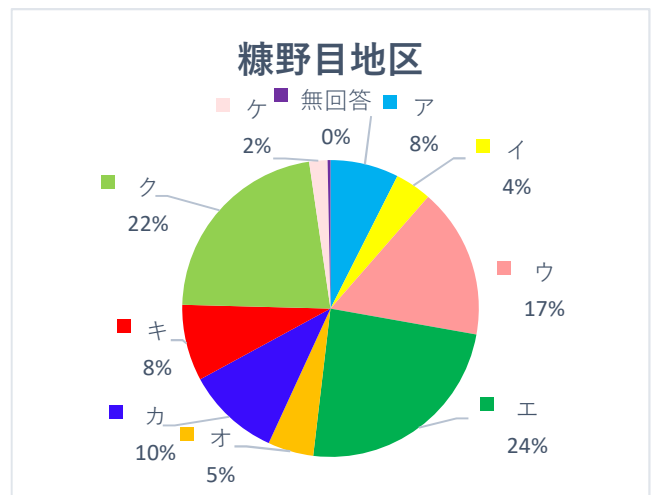
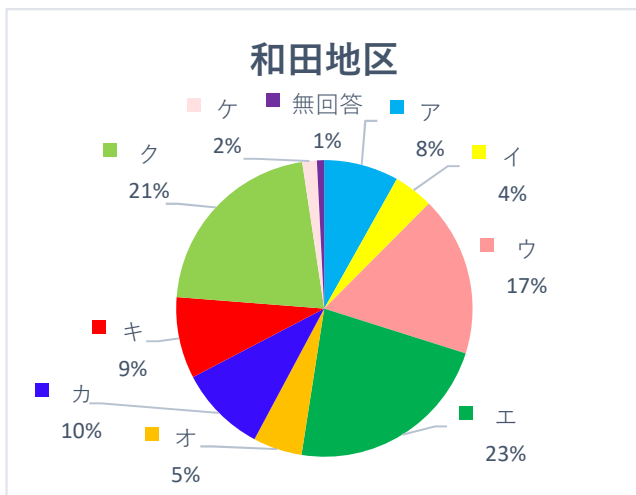
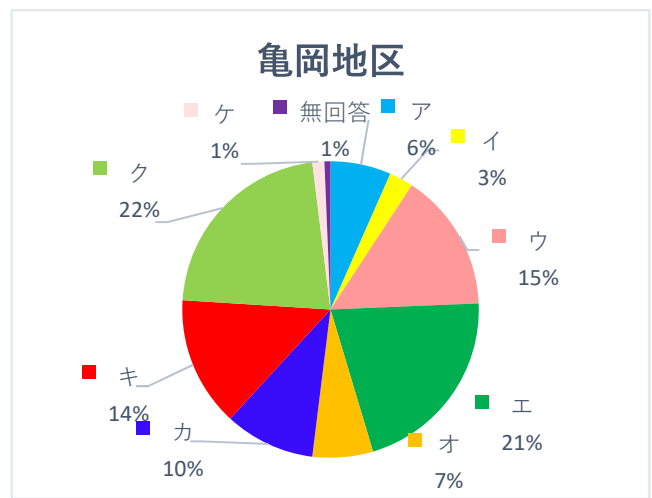
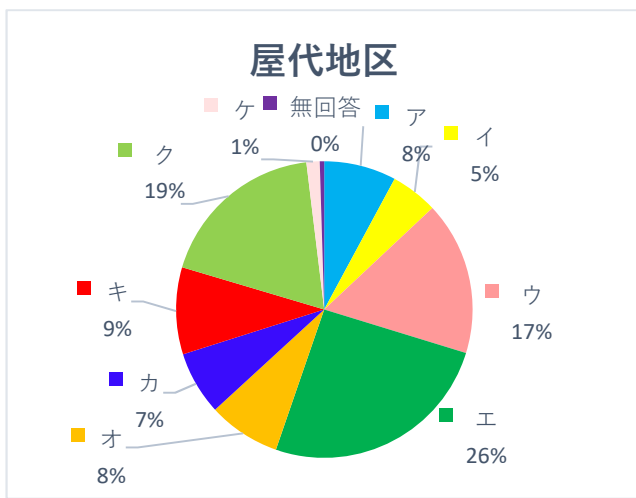
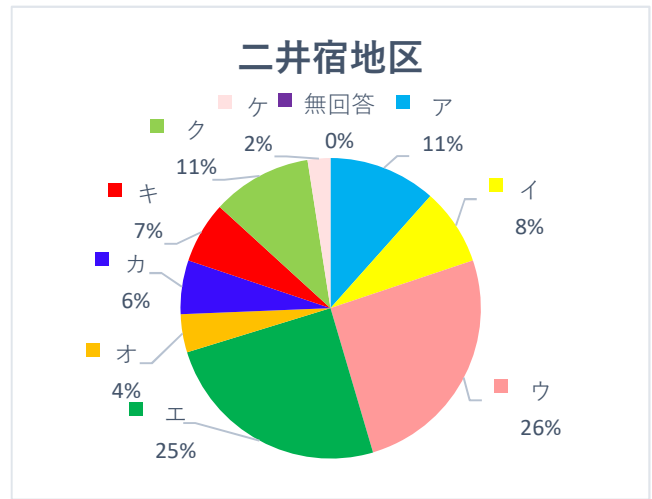
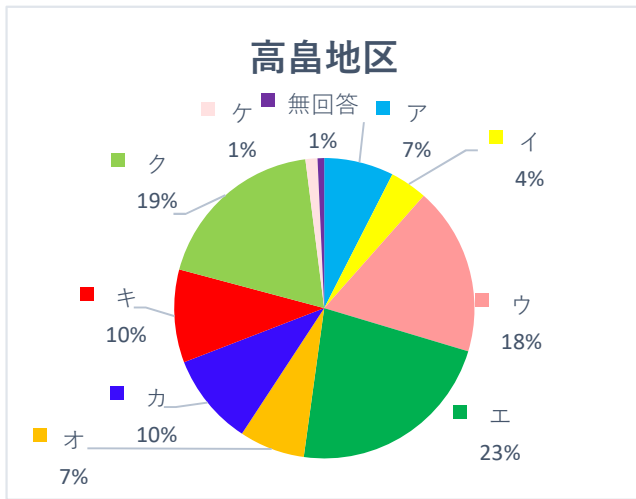
いずれの選択肢を選択した人の中でも「ウ. 学級内の絆や団結が強まる」を理由とした人の割合が18%前後を占めていて大きな相違がありません。

小学校の規模について

問11：複数学年(例えば1・2学年合同、3・4年合同など)で授業をする「複式学級」について、あなたの考えに近いものを次のア～ケから3つまで選んでください

- ア. 様々な活動リーダーを務める機会が増える
- イ. 発言の機会を多く確保できるようになる
- ウ. 異なる学年が1つの学級となり、児童が相互に学び合うため、自主性が身につく
- エ. 年齢に関係なく友達ができる
- オ. 競争意識が芽生えにくい
- カ. 多種多様な発言が引き出しにくい
- キ. 運動会や合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
- ク. 学年差による授業理解度の低下や交友関係に不安がある
- ケ. その他





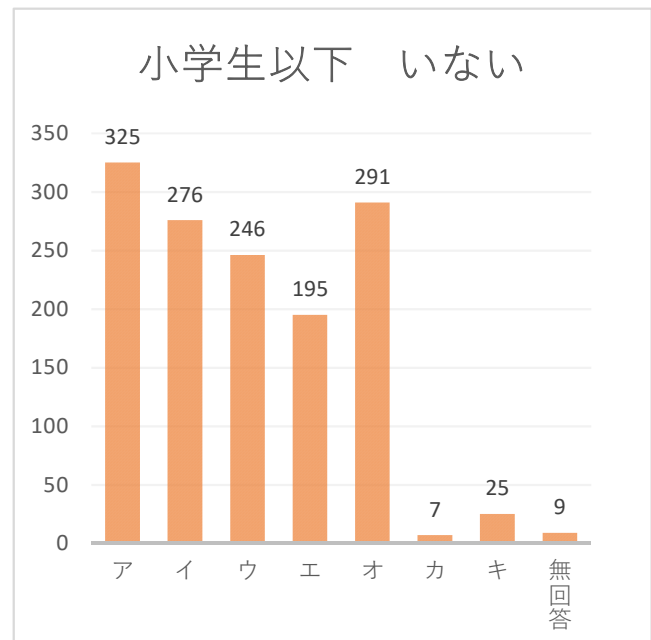
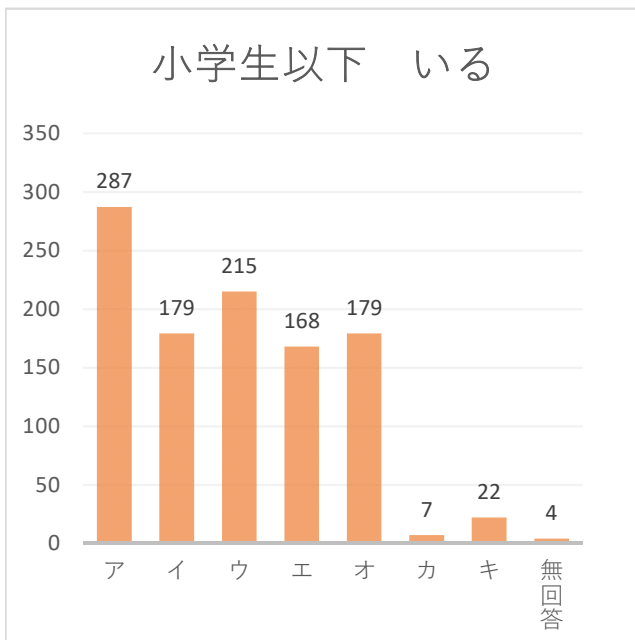
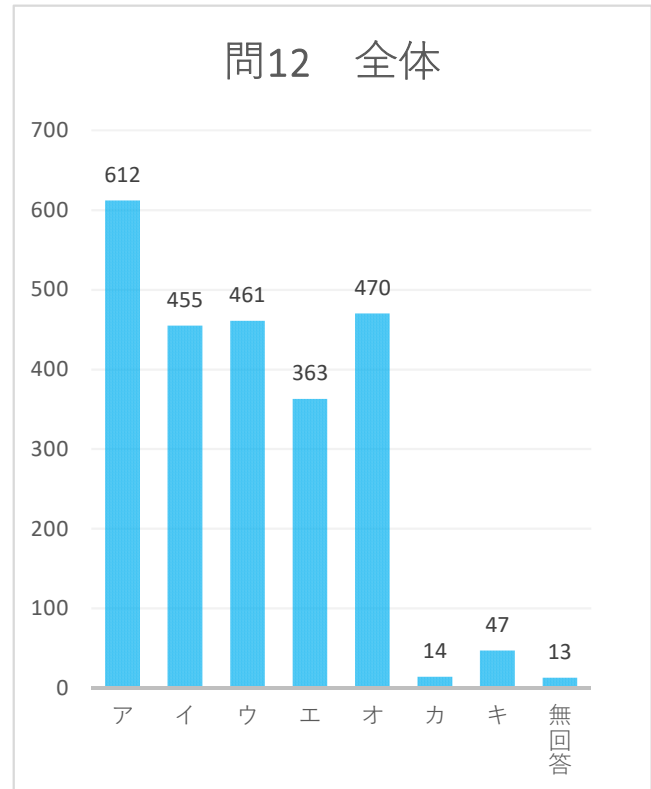
全体として「エ. 年齢に関係なく友達ができる」が最多で、次いで「ク. 学年差による授業理解度の低下や交友関係に不安がある」、「ウ. 異なる学年が1つの学級となり、児童が相互に学び合うため、自主性が身につく」の3つが目立つ結果になりました。好意的な選択肢（ア～エ）を選択した人の割合は全体の52.8%で、消極的な選択肢（オ～ク）を選択した人の割合は全体の45.1%でした。

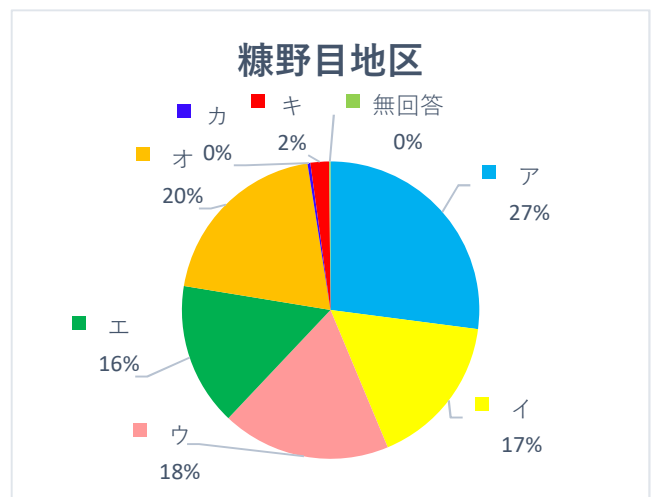
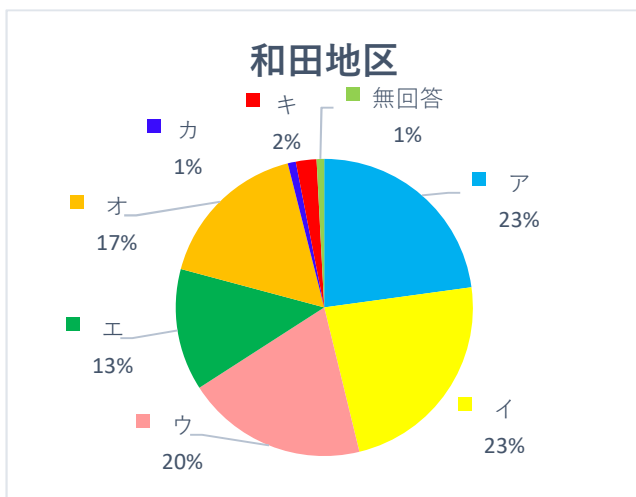
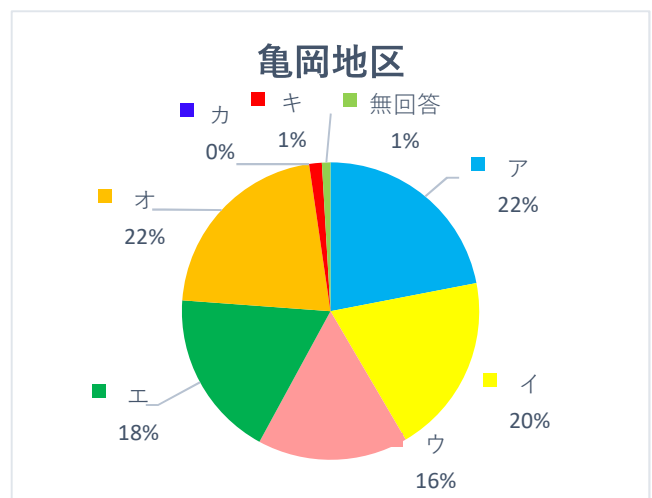
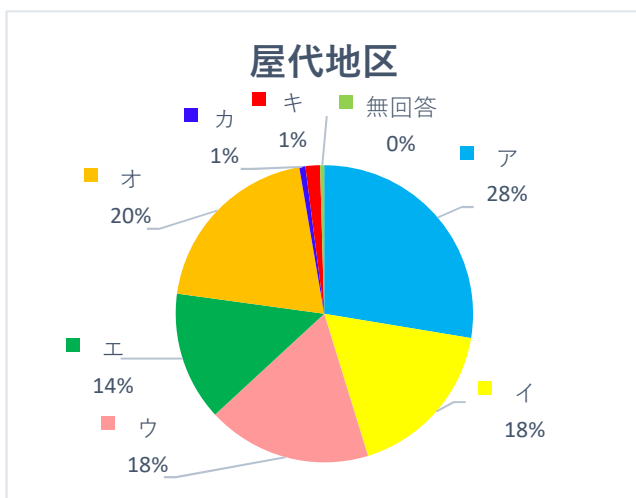
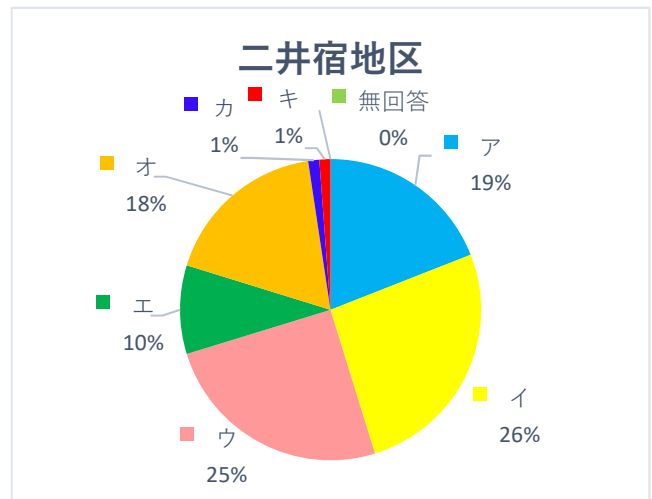
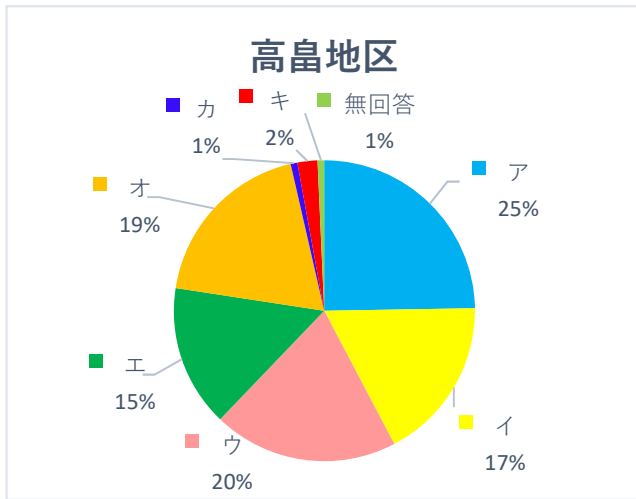
地区別でも選択肢エ、ク、ウが上位を占める類似の傾向が見られますが、中でも二井宿地区では、選択肢ウを選んだ人の割合が最多の26%を占めており、好意的な選択肢（ア～エ）を選択した人の割合が全体の70%を占めています。

小学校と地域のあり方について

問12：小学校は教育のための施設であることが第一義ですが、地域との関わりとして小学校に求めることは何ですか。次のア～キから2つまで選んでください。

- ア. 放課後や週末等の子どもたちの活動拠点（居場所）を提供する
- イ. 地域との活動を通して、子どもと大人の交流を深める
- ウ. 地域との活動を通して、地域への理解を深めたり、まちづくりを進める
- エ. 地域住民のスポーツや学習、憩いの場として学校施設を開放する
- オ. 地域の防災拠点として学校施設を利用する
- カ. その他
- キ. 特にない



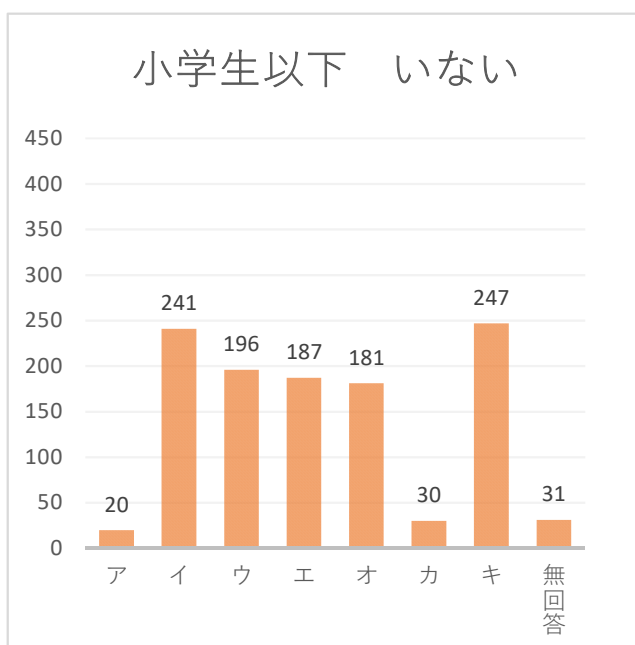
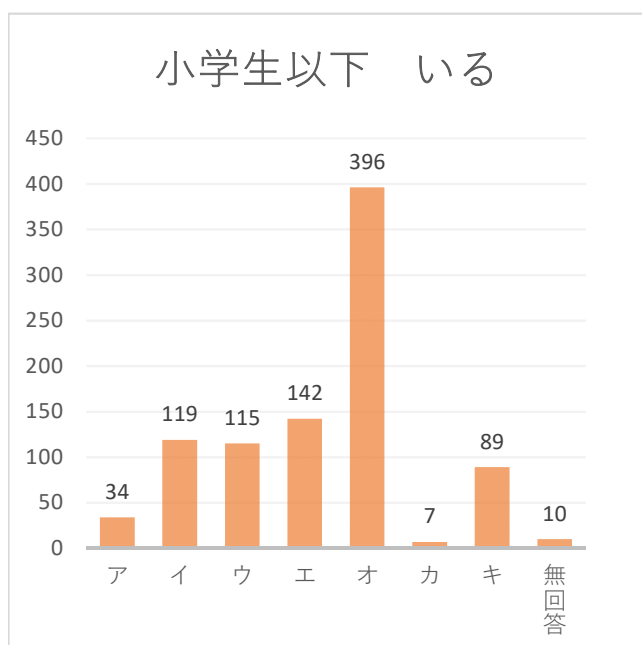
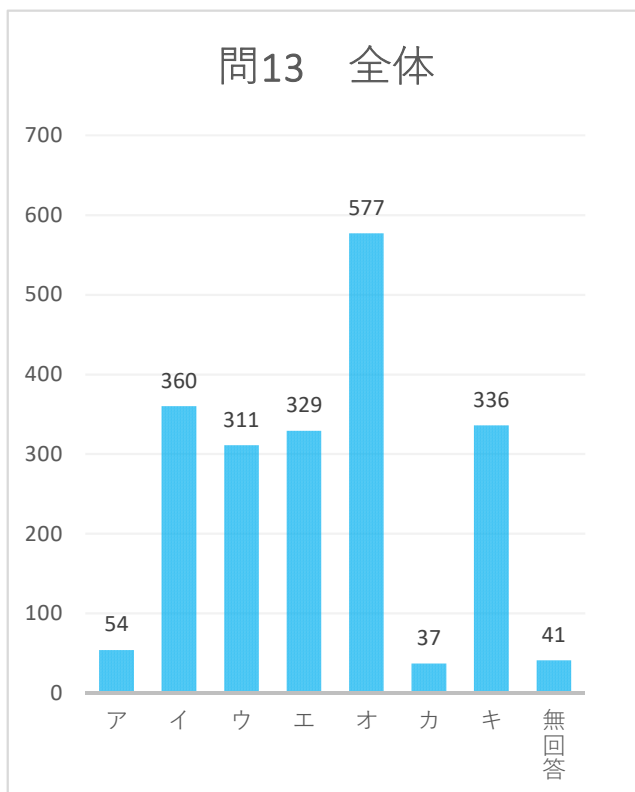


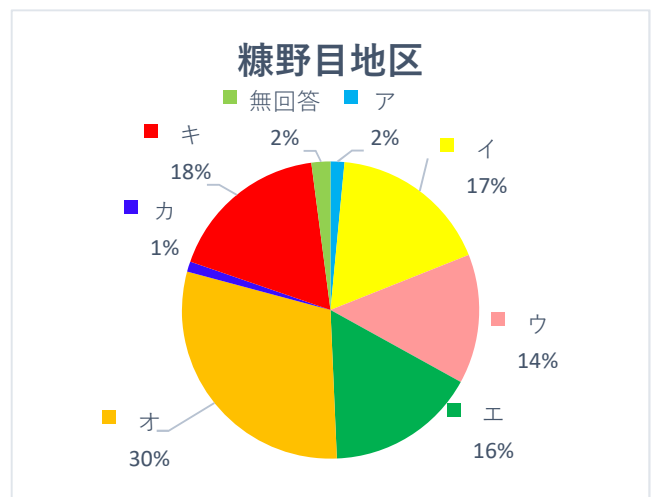
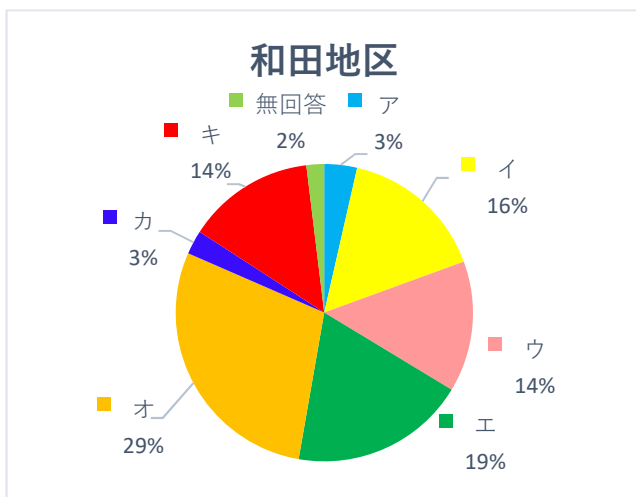
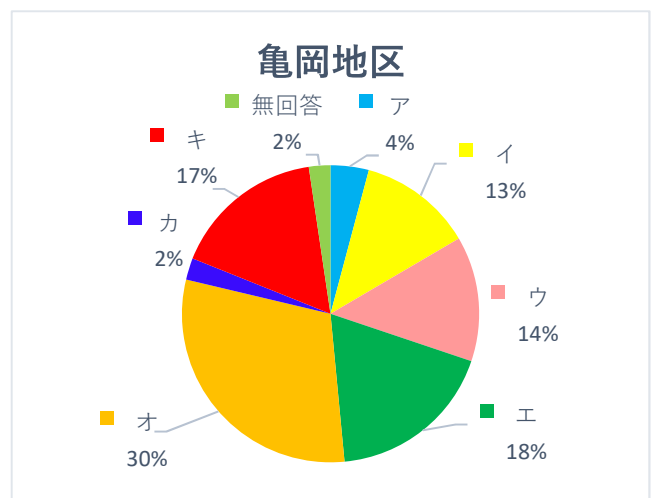
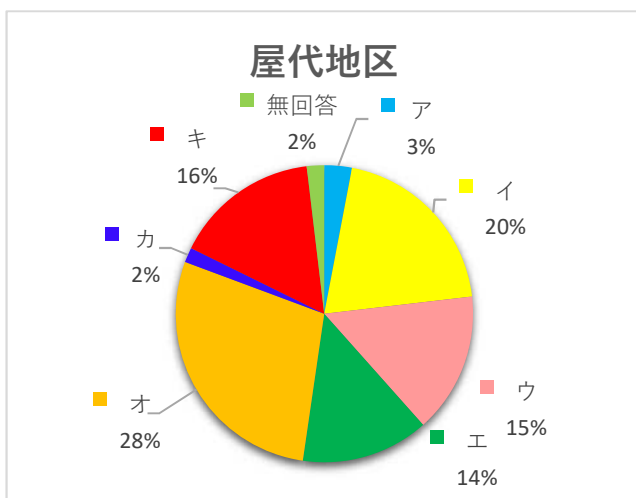
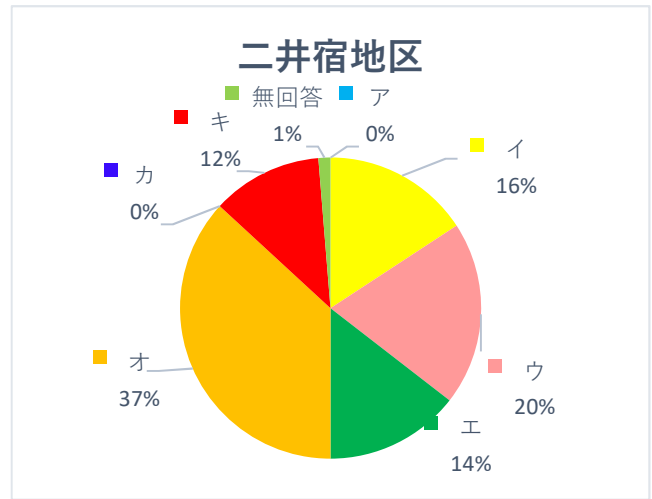
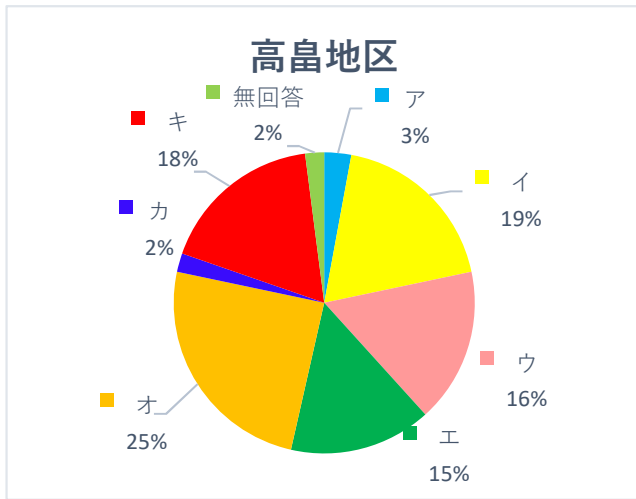
全体としては「ア. 放課後や週末等の子どもたちの活動拠点（居場所）を提供する」が最も多く、次いで「オ. 地域の防災拠点として学校施設を利用する」、「ウ. 地域との活動を通して、地域への理解を深めたり、まちづくりを進める」、「イ. 地域との活動を通して、子どもと大人の交流を深める」の3つが横並びの結果でした。地区別でもおおそ類似の傾向が見られます。

小学校と地域のあり方について

問13：今後、あなたは小学校とどのような関わりをもっていきたいとお考えですか。次のア～キから2つまで選んでください。

- ア. P T Aや学校運営協議会委員など、役職をもって関わりたい
- イ. 登下校の見守りや読み聞かせなど、ボランティア活動に参加したい
- ウ. 野菜づくりや職業体験など、校外活動を支援したい
- エ. 子どもたちの授業を支援する活動に参加したい
- オ. 学校行事に参加して、子どもたちとの交流を深めたい
- カ. その他
- キ. 特にない



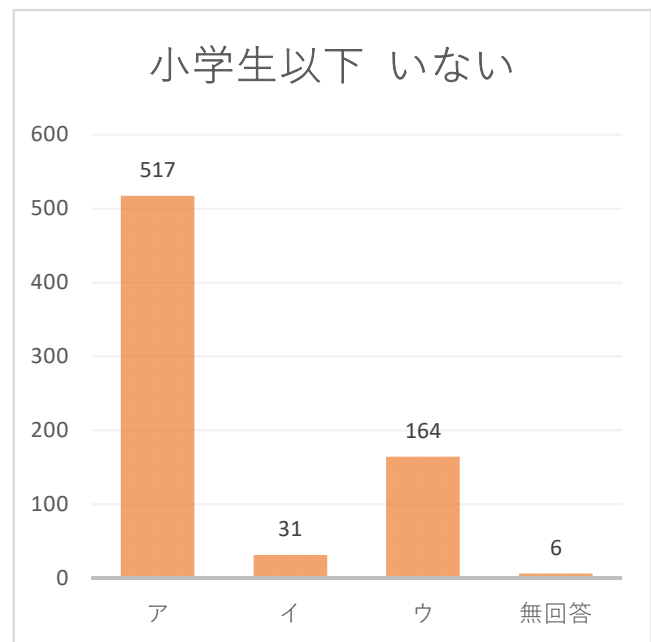
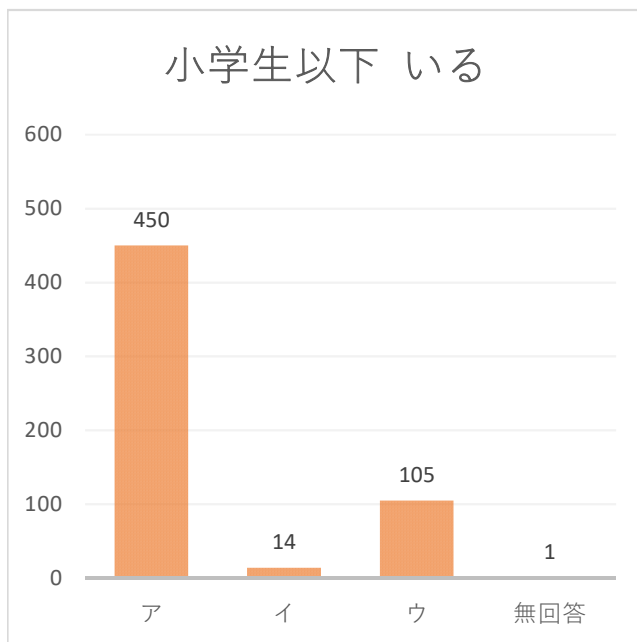
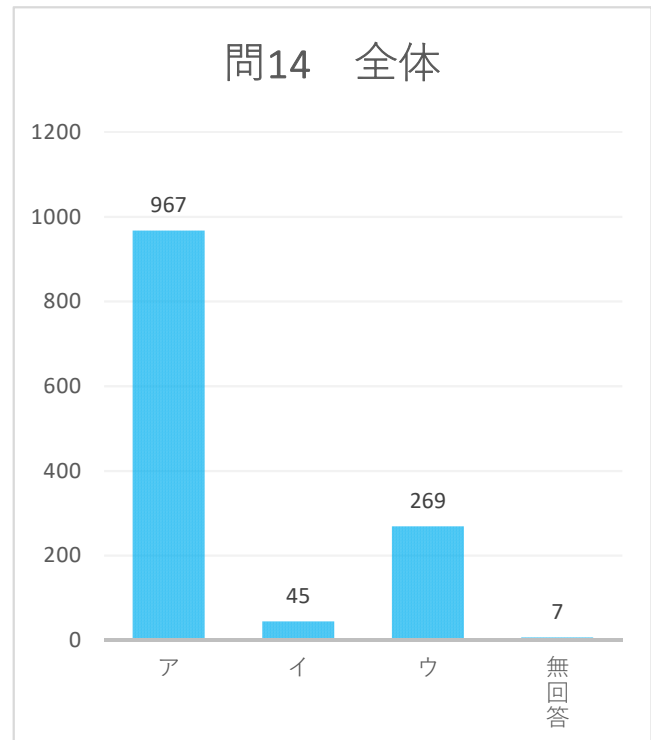


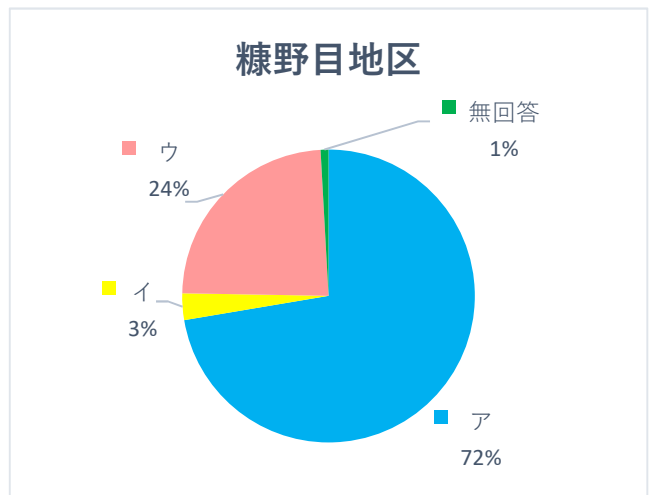
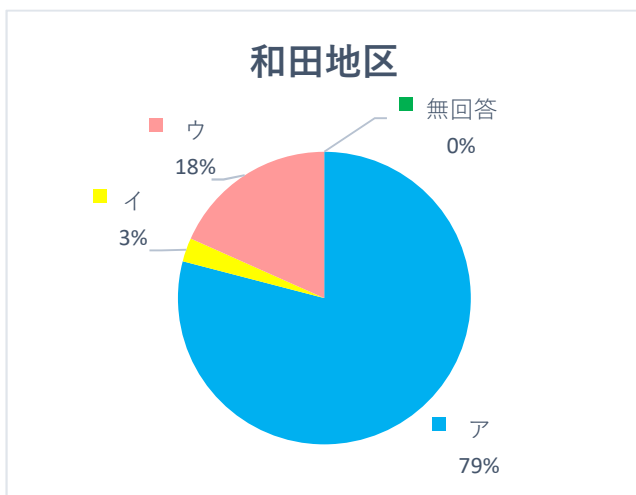
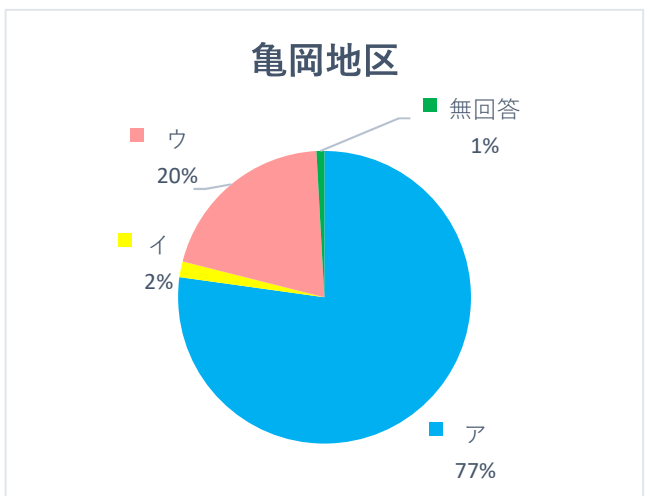
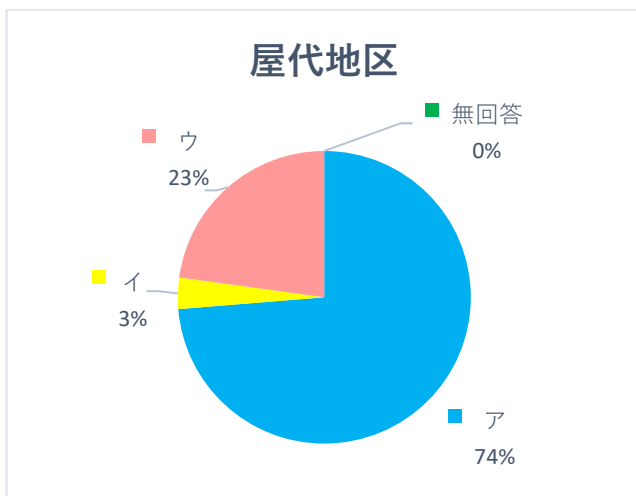
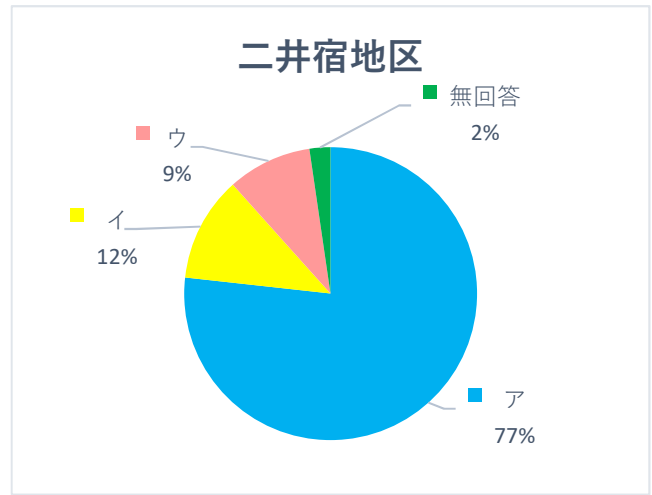
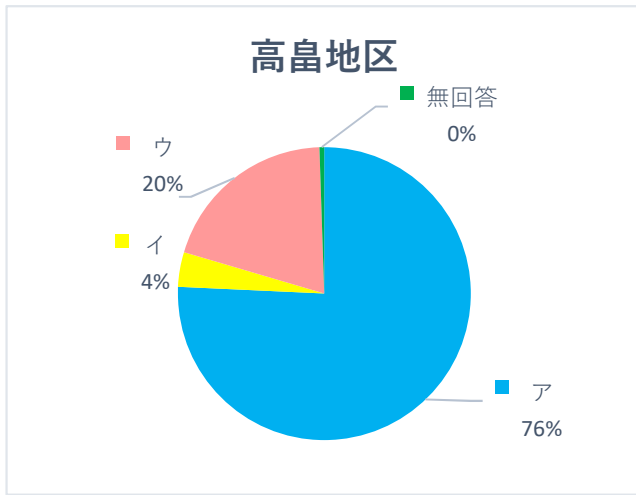
小学生以下のお子さんがある、いないで傾向が異なる結果になりました。小学生以下のお子さんがいると回答した人では「オ. 学校行事に参加して、子どもたちとの交流を深めたい」と回答した人の割合が突出しています。小学生以下のお子さんがいないと回答した人では、「キ. 特にない」と「イ. 登下校の見守りや読み聞かせなど、ボランティア活動に参加したい」がほぼ同数で多く、次いで「ウ. 野菜づくりや職業体験など、校外活動を支援したい」「エ. 子どもたちの授業を支援する活動に参加したい」「オ. 学校行事に参加して、子どもたちとの交流を深めたい」の3つが横並びになっています。各地区とも回答の割合は類似の傾向が見られます。

小学校のあり方について

問14：少子化と学校施設の老朽化が進行している状況において、高島町における小学校のあり方について検討を進めていくべきだと思いますか。次のア～ウから1つ選んでください。

- ア. そう思う
- イ. そうは思わない
- ウ. どちらともいえない・わからない



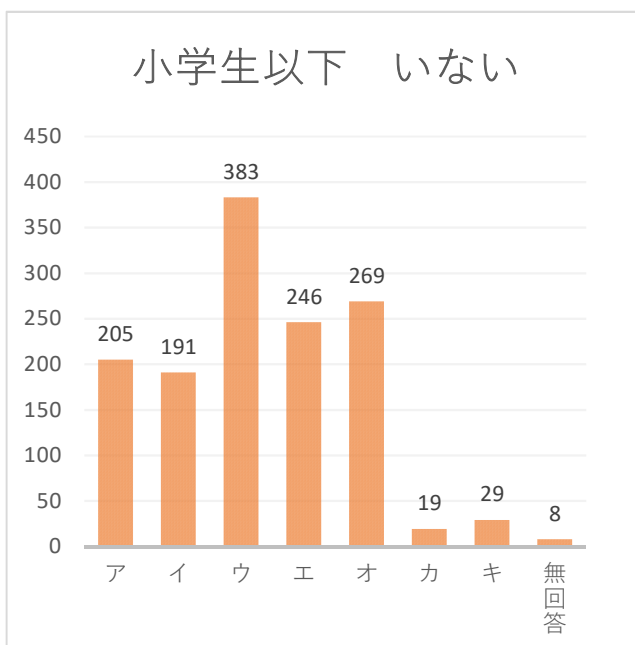
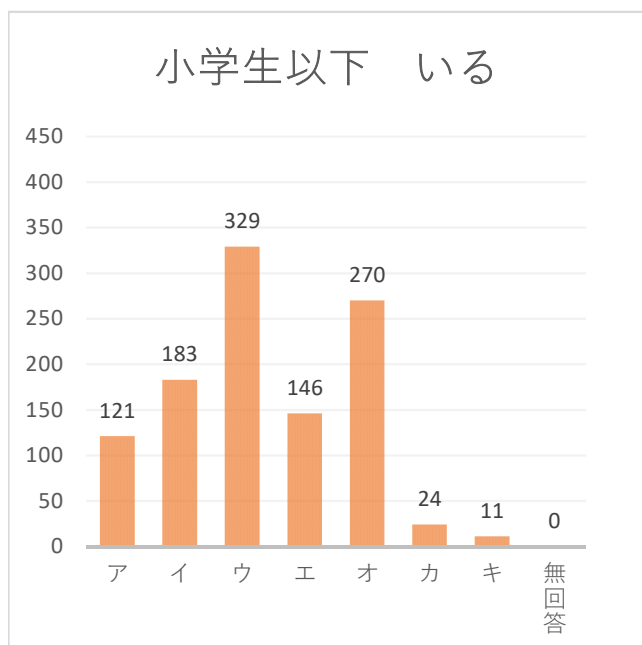
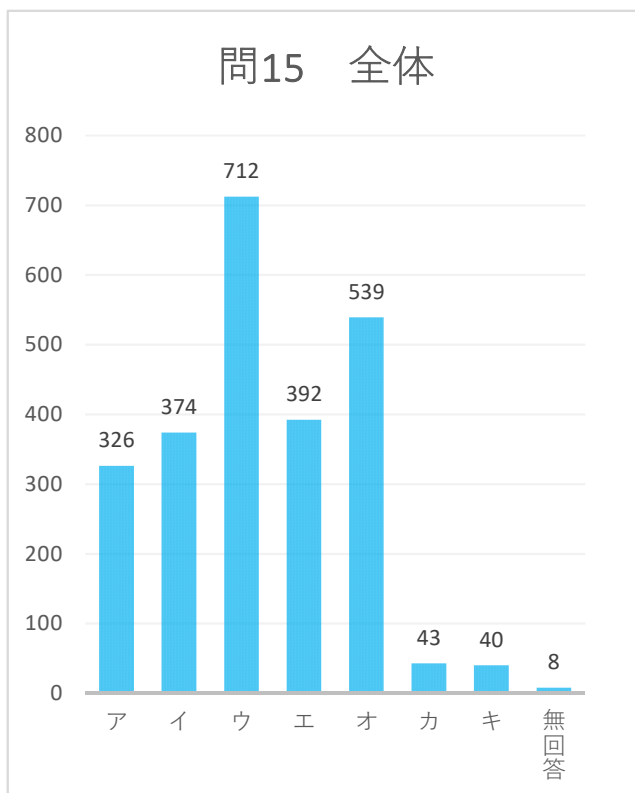


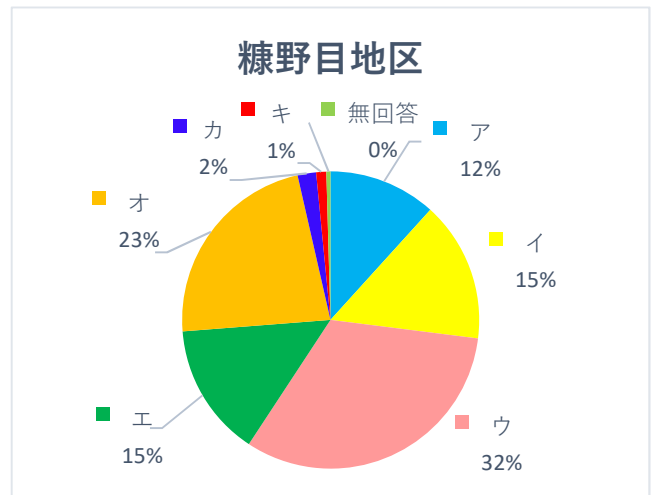
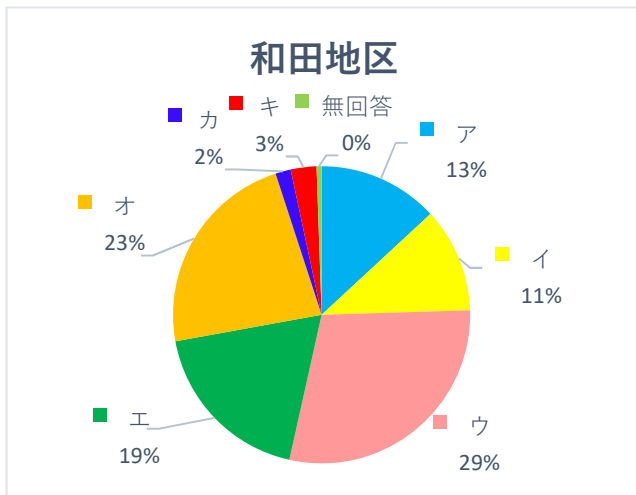
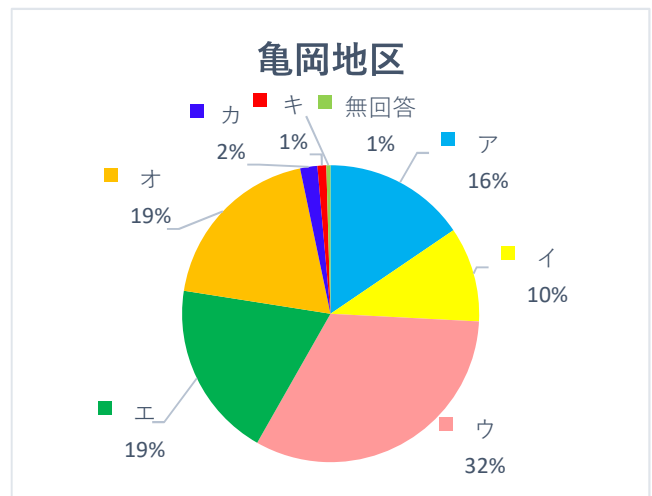
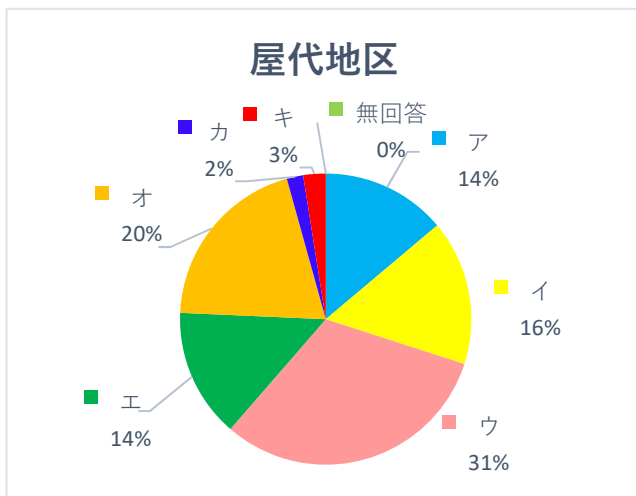
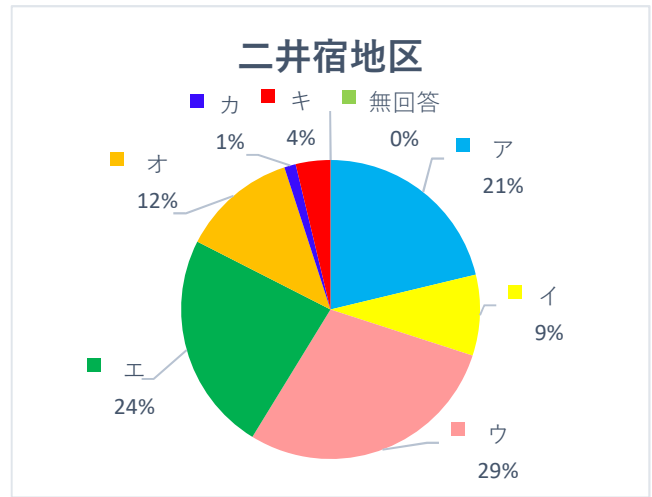
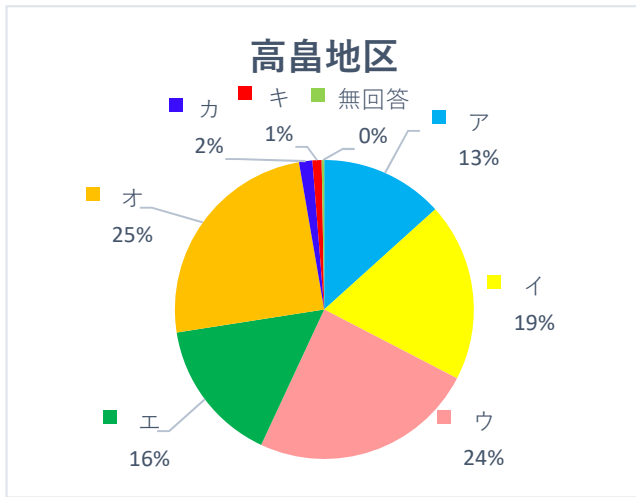
高畠町における小学校のあり方について検討進めていくべきかについては、「ア. そう思う」が各地区とも70%を超えています。
「イ. そう思わない」が二井宿地区で12%、その他の地区では2%~4%でした。二井宿地区以外では、「ウ. どちらともいえない・わからない」が20%前後を占めています。

小学校のあり方について

問15：小学校のあり方について検討を進める場合、特に配慮する必要があることは何だと思えますか。次のア～キから2つまで選んでください。

- ア. 複式学級になっても長所を活かして存続させる
- イ. クラス替えができる児童数の確保
- ウ. 児童の通学手段
- エ. 学校と地域活動とのつながり
- オ. 学校の建物や施設の整備
- カ. その他
- キ. 特にない





特に配慮すべきことは、全体として「ウ. 児童の通学手段」が最も多く、次に「オ. 学校の建物や施設の整備」が多い結果でした。地区別でも「ウ. 児童の通学手段」、「オ. 学校の建物や施設の整備」、「エ. 学校と地域活動とのつながり」が合わせて全体の65%~70%を占めており、類似の傾向が見られます。二井宿地区では「ア. 複式学級になっても長所を活かして存続させる」が他地区よりも多く21%を占めています。